

令和7年度
(2025年度)

学生の葉

シラバス (授業要綱)

歯科臨床実地マニュアル

学籍番号

氏 名

福岡医療短期大学

専攻科 口腔保健衛生学専攻

建学の精神

歯科衛生学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科衛生士を養成し、保健福祉に貢献すると共に、歯科衛生学の進展に寄与する

教育の理念

本学は、「教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、歯科衛生士に必要な専門の知識と技術を教授研究し、教養と良識を備え、口腔医学に基づいた歯科医療を実践できる有能な人材を育成するとともに、もって医療、保健、福祉に寄与する」（学則第1条）ことを使命とする。

近年、医療・保健・福祉を取り巻く環境の変貌は著しく、それらの高度化・専門化が進行している。これに伴い、歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割はますます重要視されるとともに、指導的役割を果たすことのできる優秀な人材の育成が強く求められている。これらの社会的要請に応えるために、幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた歯科衛生士の養成を目指す。

福岡医療短期大学 歯科衛生学科・専攻科

沿革と教育目標

本学の専攻科は平成11年4月、専攻科歯科衛生学専攻（1年制、定員10名）として開設された。当時は、独立行政法人 大学評価・学位授与機構の認定専攻分野に歯科衛生学の分野が設置されていなかったため、本学が独自に「口腔保健学」分野の設置を交渉し、平成20年度より全国初の口腔保健学分野の認定専攻科として再スタートした。平成20年度～令和6年度までに336名の修了生に学士（口腔保健学）が授与されている。

歯科医療現場では歯科衛生士が口腔疾患の予防処置や保健指導を主体的に行う場面が増え、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、多様な臨床例に対応できる問題解決能力、情報処理能力や科学的思考力が求められている。また、高齢患者に対応するために、口腔介護、全身疾患、社会福祉に関する知識、看護や介護の精神を学ぶことも必要である。本専攻科は、大学評価・学位授与機構の認定専攻科であり、歯科衛生学科の3年間に学んだ基礎的知識と技術の上に、さらに専門的知識と高度な技術を教授し、応用能力を備えた歯科保健医療の指導者となり得る、質の高い口腔保健学士の育成を目標とする。

入学者受入れ方針（アドミSSION・ポリシー）

1. 口腔保健衛生に深い関心を持ち、保健・医療・福祉に高い目的意識を持つ人
2. 歯科衛生士として必要な知識と技術を修得している人
3. 口腔保健衛生学への科学的探究心を持ち、臨床・研究に意欲のある人
4. 医療人としての倫理観と幅広いコミュニケーション能力のある人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 歯科衛生士の専門科目を基礎として、より実践に即した専門知識と技術の習得
2. 全身疾患と口腔との関連や有病者への対応の習得
3. 多職種との協働・連携による口腔介護・口腔リハビリテーションの習得
4. 国際化社会に対応しうるコミュニケーション能力の涵養
5. コンピュータを使用した情報処理能力やプレゼンテーション能力の涵養
6. 学士（口腔保健学）取得を目標とした教育・指導

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 医療人として高い倫理観を有する
2. 専門分野の高度な知識・技術を修得し、医療・福祉の場で実践できる
3. 科学的根拠に基づいた口腔保健衛生を実践できる
4. 国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を有する
5. コンピュータを使用した情報処理能力およびプレゼンテーション能力を有する
6. 歯科衛生士の指導者としての自覚を持つ

別 表 II 専攻科口腔保健衛生学専攻

科 目	科目番号	単位数（時間数）			摘 要	修 得 すべき 単位数	備 考
		1 年 次		計			
		前期	後期				
英 会 話	HP211001	(30)	(15)	3(45)	必 修	3	
研 究 方 法 論 *	HP212002	(30)		2(30)	選 択	2	1 科目 2 単位選択
情 報 処 理 演 習 *	HP212003	(30)		2(30)	選 択	2	
社 会 保 障 特 論 **	HP212101		(30)	2(30)	選 択	2	1 科目 2 単位選択
老人・障害者福祉論 **	HP212102		(30)	2(30)	選 択	2	
健 康 の 科 学	HP211103	(30)		2(30)	必 修	2	
歯 科 看 護 学	HP211104		(15)	1(15)	必 修	1	
口 腔 介 護 特 論	HP211201		(30)	2(30)	必 修	2	
口 腔 保 健 管 理 学	HP211202	(30)		2(30)	必 修	2	
先 端 臨 床 歯 科 学	HP211203	(30)		2(30)	必 修	2	
専 攻 研 究	HP211204	(60)	(60)	8(120)	必 修	8	
地 域 口 腔 介 護 実 習	HP211205		(45)	1(45)	必 修	1	
歯 科 臨 床 実 地	HP211206	(225)	(225)	10(450)	必 修	10	
必 修 計		(405)	(390)	31(795)			
選 択 計		(60)	(60)	8(120)			
合 計		(465)	(450)	39(915)		35	修了必要単位数

* 研究方法論または情報処理演習を自由に選択

** 社会保障特論または老人・障害者福祉論を自由に選択

福岡医療短期大学試験、 成績の評価及び進級に関する規則

(平27.4.1適用)

(試験)

- 第1条 試験は定期試験、追試験、再試験及び卒業試験とする。ただし、必要に応じ随時に試験を行うことがある。
- 2 定期試験は、学期末又は学年末に各授業科目について行う。
- 3 追試験は、病気その他やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかった者に対し当該試験科目について行う。
- 4 再試験は、定期試験において不合格となった試験科目のある者（当該試験科目について）及び卒業試験に不合格となった者に対し、必要がある場合行う。
- 5 卒業試験は、学則第13条に定める別表Ⅰ、Ⅱの教育課程を履修した者に対して行う。

(試験方法)

- 第2条 試験は、筆記又は口頭による質疑応答又は実習、実技の審査によるほか、レポート、論文の審査又は平常の成績をもって替えることができる。

(受験資格)

- 第3条 次の各号の一に該当する者は試験を受けることができない。ただし、相当の事由がある場合は、仮に試験を受けさせることができる。
- (1) 各授業科目について、出席日数が授業時間数の3分の2に達しない者及び実習については5分の4に満たない者
- (2) 学則第33条の規定により現に懲戒（停学）処分中の者
- (3) 学生納付金及び追試験又は再試験の場合における受験料を未納の者
- (4) その他短大学長の指定した者

(受験者心得)

- 第4条 受験者は次の各号に定める事項を遵守しなければならない。
- (1) 試験開始後20分経過した後は試験場に入る（受験する）ことを認められないこと及び試験開始後30分までは退場を認められないこと。
- (2) 試験場においては、必ず学生証（追・再試験の場合は追・再試験受験票、以下本号において同じ）を机上に提示すること（当日学生証を忘れた者は、あらかじめ事務室で臨時学生証の交付を受けること。）。
- (3) 試験場においては、指定の場所に着席すること。
- (4) 試験場においては、指定ある場合を除きノート、教科書、参考書等を机に置かないこと。
- (5) 試験場においては、監督者の指示に従うこと。
- (6) 答案用紙は白紙でも学籍番号、氏名を明記し、提出すること。
- (7) 試験に関する掲示に注意すること。
- (8) 追・再試験を受けようとする者は、短大学長の許可を受け、受験料を納付し追・再試験受験票の交付を受けること。

(試験中の不正行為)

第5条 試験中不正行為を認めたときは、監督員は直ちに答案を没収し、退場を命ずるとともに試験終了後速やかに短大学長に報告しなければならない。

2 不正行為を行った者に対しては、当該学期の全受験科目の評価を無効とし、かつ、学則第33条の規定により懲戒処分を行うものとする。

(成績の評価)

第6条 試験の成績は、優・良・可・不可の評語をもって表わし、可以上を合格とする。ただし、再試験においては可又は不可とし、卒業試験においては合又は否とする。

(進級及び留級)

第7条 学則第16条の規定により、当該学年において修得すべき全授業科目に合格した場合は進級とし、不合格の科目がある場合は、短大学長が進級又は留級を決定する。

(留級者)

第8条 留級者は原則として当該学年において修得すべき全授業科目のうち特に免除された科目のほかの授業に出席し、試験を受けなければならない。

福岡医療短期大学試験、 成績の評価に関する細則

(平31.4.1適用)

試験、成績の評価等の取り扱いについて

1 試験の成績における評語の点数区分等

試験の成績における各評語の点数区分は次のとおりとする。

なお、「優、良、可、不可」はそれぞれ「A、B、C、D」で表すこともできる。

(1) 定期試験等

優	(A)	100点～80点
良	(B)	79点～70点
可	(C)	69点～60点
不可	(D)	59点～0点

(2) 卒業試験等

合	100点～70点
否	69点～0点

2 追・再試験の採点方法

(1) 追試験

点数は最高100点とする。

(2) 再試験

点数は最高60点とする。ただし、卒業試験の再試験は最高70点とする。

3 再試験欠席者の成績評価

(1) 再試験欠席者の成績(学年成績)の評価は、通常、定期試験の成績をもって代えるものとするが、これによることなく、担当教員が必要に応じてその他の方法により評価を行うことができる。

(2) 再試験の成績報告書において欠席の旨表示された者については、定期試験の成績をもってその学年成績とする。

福岡医療短期大学 G P A に関する実施要項

(令5.4.1適用)

(目的)

第1条 この要項は、福岡医療短期大学（以下「本学」という。）におけるグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「G P A」という。）に関し必要な事項を定め、教育課程における学修到達度を客観的に評価することにより、大学教育の質を保証するとともに、学修支援等に資することを目的とする。

(評価等)

第2条 学生が履修した授業科目のグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「G P」という。）は、次表のとおりとする。

区 分	グレード	1単位あたりのG P	成績評価基準	学修成果の達成度
合 格	S	4	100点～90点	基準を大きく超えて優秀である
	A	3	89点～80点	基準を超えて優秀である
	B	2	79点～70点	望ましい基準に達している
	C	1.5	69点～60点	単位を認める基準に達している
	C *	1	再試験合格60点	単位を認める最低限の基準には達している
不合格	D	0	59点～0点	基準を下回っている

(G P A の算定)

第3条 各学期の G P A（以下「学期 G P A」という。）及び累積の G P A（以下「累積 G P A」という。）は、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第一位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

学期 G P A =
$$\frac{(\text{当該学期の履修科目の G P} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{当該学期の履修登録した科目の総単位数}}$$

累積 G P A =
$$\frac{(\text{全学期の履修科目の G P} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{修得した科目の総単位数}}$$

(対象授業科目等)

第4条 本学で進級あるいは卒業により認定されたすべての授業科目を G P A の対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の場合は、G P A の対象外科目とする。

- (1) 選択科目で必要単位数を超えて取得した科目
- (2) 編入学または転入学等の単位認定科目
- (3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (4) その他教授会で認めた G P A 算出除外科目

(G P A の公表)

第5条 G P A は、成績配付時に学生へ公表する。

(G P A の活用)

第6条 学期 G P A は、次のとおり活用するものとする。

- (1) 1つの学期（1セメスター）の G P A が 1.5 未満となった場合は、学生本人を呼び出し、学年担任による注意と指導を行う。
 - (2) G P A 1.5 未満が 2 学期（2セメスター）連続した場合は、学生本人及び保証人（父母又はこれに準ずる者）に対して学科長と学年担任による面談を実施し、学年担任と助言教員等が継続的な学修支援等を行う。
 - (3) G P A 1.5 未満が 3 学期（3セメスター）連続した場合は、学生本人及び保証人（父母又はこれに準ずる者）に対して学科長と学年担任による面談を実施し、退学するか、就学を継続するか意思確認を行う。就学意思がある場合には、学年担任及び助言教員等が継続的な学修支援・生活指導等を行う。なお、面談に応じない、または面談の結果、学修意欲の改善が著しく困難と判断された場合は、退学勧告を行うことができる。
- 2 累積 G P A は、次のとおり活用するものとする。

- (1) 学生の主体的な学修を促進するための指標
 - (2) 学生の学業成績を総合的に判断する指標
 - (3) 特別奨学生や奨学金等の算定基礎資料
 - (4) 学生の推薦や就職活動等にかかる資料
- (その他)

第7条 この要項に定めるもののほか、GPAの取扱いに関し必要な事項は、学務・FD委員会が別に定める。

福岡医療短期大学出欠の確認に関する細則

(平25.4.1適用)

- 1 福岡医療短期大学出欠の確認に関する細則は、次のとおりとする。
- 2 出席の確認は各授業開始時に行う。
- 3 出席確認時にあらかじめ決められた座席に着席していない者は欠席とする。
- 4 授業担当者が正当な理由がないと判断した授業途中の退室は欠席とする。
- 5 授業中の携帯電話の使用は禁止する。使用した者はその授業を欠席とし、退室を命じる。
- 6 法令、天災その他本人の責によらない場合には、速やかに届け出ること。

シラバス（授業要綱）

目 次

英 会 話	1
健 康 の 科 学	4
歯 科 看 護 学	6
口 腔 介 護 特 論	8
口 腔 保 健 管 理 学	10
先 端 臨 床 歯 科 学	12
専 攻 研 究	14
地 域 口 腔 介 護 実 習	17
歯 科 臨 床 実 地	20
研 究 方 法 論	32
情 報 処 理 演 習	35
社 会 保 障 特 論	38
老 人 障 害 者 福 祉 論	40

専攻科口腔保健衛生学専攻 教育課程表

科 目	科目番号	単位数（時間数）			摘 要	修 得 すべき 単位数	備 考
		1 年 次		計			
		前期	後期				
英 会 話	HP211001	(30)	(15)	3(45)	必 修	3	
研 究 方 法 論 *	HP212002	(30)		2(30)	選 択	2	1 科目 2 単位選択
情 報 処 理 演 習 *	HP212003	(30)		2(30)	選 択	2	
社 会 保 障 特 論 **	HP212101		(30)	2(30)	選 択	2	1 科目 2 単位選択
老人・障害者福祉論 **	HP212102		(30)	2(30)	選 択	2	
健 康 の 科 学	HP211103	(30)		2(30)	必 修	2	
歯 科 看 護 学	HP211104		(15)	1(15)	必 修	1	
口 腔 介 護 特 論	HP211201		(30)	2(30)	必 修	2	
口 腔 保 健 管 理 学	HP211202	(30)		2(30)	必 修	2	
先 端 臨 床 歯 科 学	HP211203	(30)		2(30)	必 修	2	
専 攻 研 究	HP211204	(60)	(60)	8(120)	必 修	8	
地 域 口 腔 介 護 実 習	HP211205		(45)	1(45)	必 修	1	
歯 科 臨 床 実 地	HP211206	(225)	(225)	10(450)	必 修	10	
必 修 計		(345)	(390)	31(795)			
選 択 計		(60)	(60)	8(120)			
合 計		(405)	(450)	39(915)		35	修了必要単位数

*研究方法論または情報処理演習を自由に選択

**社会保障特論または老人・障害者福祉論を自由に選択

専攻科 口腔保健衛生学専攻

Dental Hygiene Postgraduate Course

■キーワード
口腔保健
口腔介護
口腔保健衛生学

■学習・教育目標

歯科医療の現場では、歯科衛生士が口腔疾患の予防処置や保健指導を主体的に行うケースが増えており、患者とのコミュニケーションにより病態や予防法を分かりやすく説明するプレゼンテーション能力や多様な臨床例に対応できる問題解決能力、臨床データの情報処理能力、科学的思考力などが求められている。また、高齢患者や障害を持つ患者に対応するためには、口腔介護の知識と技術のほか、全身疾患の知識や社会福祉に関する知識や看護、介護の精神を学ぶことも必要である。

本専攻科では、これらの知識、技術や能力を修得させるために、歯科衛生学科の3年間に学んだ基礎的知識と技術の上に、さらに専門的知識と高度な技術を教授し、応用能力を備えた歯科保健医療の指導者となり得る、専門性と資質の高い歯科衛生士を育成することを目的とする。また、本科は独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構より日本で初めて口腔保健衛生学の認定専攻科に認定されており、歯科衛生士の学問的レベルの向上のため、専攻科で学んだ成果をまとめて口腔保健学士の取得も目標としている。

科目領域の学習・教育目標

専攻科

専門外科目

医療人としての高い倫理観と幅広いコミュニケーション能力を持ち、多様な患者に対応するための知識を習得する。科学的思考力と研究心を養うために臨床データの情報処理能力およびプレゼンテーション技術を修得する。また英会話の実践を通して国際化社会に対応しうる対人コミュニケーション能力を身につける。

関連科目

歯科衛生士の専門科目を基礎として、社会福祉に関する知識、全身疾患と口腔との関連や有病者への対応について、より実践に即した専門知識の修得を目指す。多様な臨床例に対応できる問題発見能力と問題解決能力を身につける。

専門科目

歯科衛生学科の3年間で学んだ基礎的知識と技術の上に、さらに専門的知識と高度な技術を教授し、応用能力を備えた歯科保健医療の指導者となり得る、専門性と資質の高い歯科衛生士を育成する。福岡歯科大学医科歯科総合病院の各診療科（総合歯科、保存・歯周病科、小児歯科、矯正歯科、補綴科、インプラント科、口腔外科、障害者歯科、高齢者歯科、口腔医療センター）において、専門分野の高度な知識・技術を修得し、科学的根拠に基づいた口腔保健衛生生を実践できる歯科衛生士の養成を目的とする。また、キャンパス内の介護老人保健施設および介護老人福祉施設では、多職種との協働・連携をはかり、器質的・機能的口腔ケアの実践を通して、口腔介護・口腔リハビリテーションを修得する。

1 年 次

前期

後期

HP211001
英会話

③

HP212002
研究方法論

②

HP212003
情報処理演習

②

HP212101
社会保障特論

②

HP212102
老人・障害者福祉論

②

HP211103
健康の科学

②

HP211104
歯科看護学①

HP211201
口腔介護特論

②

HP211202
口腔保健管理学

②

HP211203
先端臨床歯科学

②

HP211205
地域口腔介護実習

①

HP211206
歯科臨床実地

⑩

HP211204
専攻研究

⑧

必修科目

選択科目

○の中の数字は単位数

学修総まとめ科目「専攻研究」における学修成果論文に対する成績評価の観点と評価対象の活動

福岡医療短期大学専攻科			評価対象の活動				
	成績評価の観点	最高評価	研究発表会	研究論文	抄読会	研究指導	
1	研究の背景、研究目的が記述されているか	5点	◎	◎	◎		
2	困難を乗り越える十分な努力がなされたか	5点				◎	
3	研究方法や手段は適切であるか	5点		◎	◎		
4	適切な仮説が提示されているか	5点		◎			
5	論理的展開が妥当であるか	5点	◎	◎	◎		
6	批判的、合理的な思考力が生かされているか	5点		◎	◎		
7	結果あるいは途中経過における考察は妥当か	5点	◎	◎			
8	学修総まとめ科目履修計画書に記述された計画・内容と一貫性が保たれているか 大きな変更が生じた場合には、その理由、解決策等が明記されているか	5点				◎	
9	文章表現は適切であるか	5点		◎		◎	
10	指定論文・選択論文の口頭発表（プレゼンテーション）においてコミュニケーション能力が示されたか	5点			◎		
11	研究成果の口頭発表（プレゼンテーション）においてコミュニケーション能力が示されたか	5点	◎				
12	研究において他者とのチームワークが取れたか、リーダーシップを発揮したか	5点			◎	◎	
13	研究において倫理性が確保されていたか	5点		◎		◎	
総点			20点	40点	30点	25点	
評価の割合			15%	60%	10%	15%	

学修総まとめ科目「専攻研究」における学修成果論文に対する成績評価の観点と基準

成績評価の観点 基準					
		優 (5点)	良 (4点) (抄読発表はこの評点の評価は行わない)	可 (3点)	不十分 (1点)
1	研究の背景、研究目的が記述されているか	これまでに明らかにされたこと、現在の論点が明確にされており、それに基づいて研究の目的を設定している	現在の論点は明確にされているが、研究の目的が論点からずれている	研究の目的は明確であるが、現在の論点が明確にされていない	現在の論点が不明であり、研究の目的が明確ではない
2	困難を乗り越える十分な努力がなされたか	自らの工夫によって、課題発表・論文作成における困難を克服した	指導教員の助言、指導のもとに、課題発表・論文作成に向けて努力し、困難を克服した	指導教員の助言、指導のもとに、課題発表・論文作成に向けて努力した	課題設定が低く、困難が殆どない、または、指導教員の助言、指導によっても困難を克服する努力が見られない
3	研究方法や手段は適切であるか	目的を達成するために、複数の方法を吟味し、最善の方法を選択している	目的を達成するために適切な方法を用いているが、その方法を採用した理由が明確でない	用いた方法は目的を達成するために利用できるが、最善のものではない	方法が述べられていない、または適切な方法ではない
4	適切な仮説が提示されているか	目的を達成する上で、適切な仮説を明確に立てている	目的を達成する上で、適切な仮説を立てている	仮説は立てているが、研究の目的・研究課題とずれがある	仮説がないまま、レポートを書いている
5	論理的展開が妥当であるか	重要な根拠が資料とともに明示されており、論理的に結論を導いている	重要な根拠に基づいて、論理的に結論を導いているが、根拠の科学的裏付けが弱い	重要な根拠に基づいて、結論を導いているが、論理的でない部分がある	結論が根拠に基づいておらず、論理的な展開をしていない
6	批判的、合理的な思考力が生かされているか	自己の見解が明確に出されている	自己の見解はあるが、多くは他人の見解を写したものである	他人の見解のみで自己の見解がない	結論が読み取れない
7	結果あるいは途中経過における考察は妥当か	仮説を検証する上で適切な分析を行っている	必要な資料について分析が行われているが、十分ではない	分析が行われているが、資料が不十分であり、仮説を検証するには至っていない	分析がなされていない、または不十分である
8	学修総まとめ科目履修計画書に記述された計画・内容と一貫性が保たれているか 大きな変更が生じた場合には、その理由、解決策等が明記されているか	科目履修計画書に記述された計画・内容と一貫性が保たれている	幾分の変更がなされたが、概ね科目履修計画書に記述された計画・内容と一致する	科目履修計画書に記述された計画・内容から外れているが、変更理由は明確であり、解決策が示されている	科目履修計画書に記述された計画・内容から大きく外れており、変更理由が不明瞭である、あるいは、解決策が示されていない
9	文章表現は適切であるか	用語の誤用、発表資料として不適切な文体（口語体、主語述語の不明確さ、擬態語、形容詞・副詞の多様、連続した助詞の使用等、句読点の乱用あるいは欠落）も認められない、または自ら修正できる	用語の誤用、文体の不統一、不適切な文体（口語体、主語述語の不明確さ、擬態語、形容詞・副詞の多様、連続した助詞の使用等、句読点の乱用あるいは欠落）が認められるが、教員や他者からの助言によって修正できる	用語の誤用、文体の不統一、不適切な文体（口語体、主語述語の不明確さ、擬態語、形容詞・副詞の多様、連続した助詞の使用等、句読点の乱用あるいは欠落）が認められるが、教員や他者からの助言によって概ね修正できる	用語の誤用、文体の不統一が認められ、教員や他者からの助言によっても充分な修正には至らない
10	指定論文・選択論文の口頭発表（プレゼンテーション）においてコミュニケーション能力が示されたか	資料のデザイン、字体の選択、視覚素材による説明など、全ての資料に工夫が見られる 言葉が明瞭で、十分な声量で発表した	資料には必要な情報が含まれているが、参加者の理解を深める工夫が見られる	資料には必要な情報が含まれているが、参加者の理解を深める工夫は少ない	資料には結論に不要な情報も含まれ、参加者の理解を深める工夫がない 声量が十分でなく、また言葉が明瞭でなく、聞き取りにくい
11	研究成果の口頭発表（プレゼンテーション）においてコミュニケーション能力が示されたか	スライドのデザイン、字体の選択、視覚素材による説明など、全てのスライドに工夫が見られる 明瞭で十分な声量で発表し、制限時間も守れた PC・ポインターなどの機器を円滑に操作することができた	スライドには必要な情報が含まれ、参加者の理解が深められる工夫が見られる 制限時間は守れなかったが、明瞭で声量も十分であった 機器の操作は概ねできたが、一部補助者の助けが必要であった	スライドには必要な情報が含まれているが、参加者の理解を深める工夫は少ない 内容は概ね伝えることができたが、声量、明瞭さにかける部分もあった。また、状況に対する判断が不適切な部分があった 機器の操作に不慣れて、頻繁に補助者の助けを借りた	スライドには結論に不要な情報も含まれ、参加者の理解を深める工夫がない 声量が十分でなく、また言葉が明瞭でなく、内容が人に伝わらなかった 全く機器の操作ができず、常に補助者の助けを借りた
12	研究において他者とのチームワークが取れたか、リーダーシップを発揮したか	自ら進んで困難に直面している他者を支援し、課題解決にリーダーシップを発揮する	自ら進んで他者と協力して、課題解決に努力する	教員の助言や他者からの求めに応じて、他者と協力し、課題解決に取り組む	教員の助言や他者からの求めに対して、反応しない
13	研究において倫理性が確保されていたか	研究目的、方法等について倫理審査委員会に申請し、承認されている	研究目的、方法等が倫理的に問題がない	研究目的、方法等が倫理的に問題が指摘されたことについて、満足できる修正が行われた	研究目的、方法等が倫理的に問題が指摘されたことについて、修正が不十分である

英会話

開講時期	専攻科通年
授業時間数	23 コマ：45 時間 3 単位
受験資格要件	2/3（16 コマ）以上の出席
科目番号	HP211001
評価責任者	黒木 まどか
授業担当者	Joshua McAlister

1. 一般目標

本専攻科での「英会話」は、単に旅行等で役に立つ英会話能力の習得だけでなく、英語圏における異文化理解を通して教養を身につけることにも重点を置いた授業内容にしている。また、「英会話」を活用し、国際化社会に対応できる対人コミュニケーション能力の養成も目標としている。特に次の項目を重点的に行う。①海外研修&旅行で役に立つスピーキング&リスニング能力の向上、②映画を利用した英会話力養成、③異文化理解、④対人コミュニケーション能力の養成である。毎年、実施されるアメリカ合衆国への海外研修や海外の研究者とのコミュニケーションが上手くできる会話力を身に付ける。

2. 教育方法

講義・グループワークを行う。

3. 教育教材・機材

配布プリント、DVD、PC+プロジェクター。

4. 学修方法

下記予習項目に記載しているように、前時に既習の授業内容を自宅学習し、始業時に行う口頭による質問に答えることができるように事前学修を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。本授業は、専攻研究と関連があり、理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：89時間】

5. 評価

[総括的評価] レポート（60%）平常評価：確認テスト・授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言等）（40%）

[フィードバック] 成績は評価後に通知する。

6. 教科書・テキスト

配布プリント

7. 参考書

英和辞典（電子辞書でも可）

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	4/9 (水) 1限	Joshua	オリエンテーション Unit 1 In your Free Time [講義]・[演習]	1) 本文の英語の内容を理解する。	(1) 前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2) 本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 1の分からない単語を調べる。 (4 時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)
2	4/16 (水) 1限	Joshua	Unit 2 Communication Skills [講義]・[演習]	1) 本文の英語の内容を理解する。	(1) 前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2) 本文の既習後の英語を正しく音読することができる。	Unit 2を熟読する。 (4 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
3	4/23 (水) 1限	Joshua	Unit 3 World Languages and culture [講義]・[演習]	1) 本文の英語の内容を理解する。	(1) 前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2) 本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 3の分からない単語を調べる。 (4 時間)	認知 (解釈)
4	4/30 (水) 1限	Joshua	Unit 4 Healthy Body, Healthy Mind [講義]・[演習]	1) 本文の英語の内容を理解する。	(1) 前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2) 本文の既習後の英語を正しく音読することができる。	Unit 4を熟読する。 (4 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
5	5/7 (水) 1限	Joshua	Unit 5 Careers Nowadays [講義]・[演習]・ [DVD視聴]	1)DVDを視聴して音声と映像を通して内容を理解し、映画の中に出てきた文化的な内容について討議する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)視聴した映画の文化的な内容について説明することができる。	映画の中で出てきた文化的な内容を確認する。 (4時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
6	5/14 (水) 1限	Joshua	Unit 6 Fashion Trend [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 6の分からない単語を調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
7	5/21 (水) 1限	Joshua	Unit 7 Planning a Trip Abroad [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の既習後の英語を正しく音読することができる。	Unit 7を熟読する。 (4時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
8	5/28 (水) 1限	Joshua	Unit 8 Are you into Sports? [講義]・[演習]・DVD 視聴	1)DVDを視聴して音声と映像を通して内容を理解し、映画の中に出てきた文化的な内容について討議する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)視聴した映画の文化的な内容説明することができる。	映画の中で出てきた文化的な内容を確認する。 (4時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)
9	6/4 (水) 1限	Joshua	Unit 9 Parties Are a Lot of Fun! [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 9の分からない単語を調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
10	6/11 (水) 1限	Joshua	Unit 10 Art in Our Life [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の既習後の英語を正しく音読することができる。	Unit 10を熟読する。 (4時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
11	6/18 (水) 1限	Joshua	Unit 11 What Shall We Eat? [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 11の分からない単語を調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
12	6/25 (水) 1限	Joshua	Unit 12 What Makes a Good Company? [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の既習後の英語を正しく音読することができる。	Unit 12を熟読する。 (4時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
13	7/2 (水) 1限	Joshua	Unit 13 Advances in Science [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 13の分からない単語を調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
14	7/9 (水) 1限	Joshua	Unit 14 Life with Technology [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の既習後の英語を正しく音読することができる。	Unit 14を熟読する。 (4時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
15	7/16 (水) 1限	Joshua	Unit 15 Eco Friendly Life [講義]・[演習]・ [DVD視聴]	1)DVDを視聴して音声と映像を通して内容を理解し、映画の中に出てきた文化的な内容について討議する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)視聴した映画の文化的な内容することができる。	映画の中で出てきた文化的な内容を確認する。 (4時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)
16	9/3 (水) 1限	Joshua	オリエンテーション Unit 1 Making an Appointment by Telephone [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 1の分からない単語を調べる。 (4時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)
17	9/10 (水) 1限	Joshua	Unit 2 Requests for Medicine [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の既習後の英語を正しく音読することができる。	Unit 2を熟読する。 (4時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
18	9/17 (水) 1限	Joshua	Unit 3 Emergency Appointments [講義]・[演習]	1)本文の英語の内容を理解する。	(1)前回学修した内容に対する質問に答えることができ、説明できる。 (2)本文の英語を和訳し、内容を説明することができる。	Unit 3の分からない単語を調べる。 (4時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
19	9/24 (水) 1限	Joshua	Unit 4 National Health Insurance [講義]・[演習]	1) 本文の英語の内容 を理解する。	(1) 前回学修した内容に対する質問に 答えることができ、説明できる。 (2) 本文の既習後の英語を正しく音読 することができる。	Unit 4を熟読 する。 (4 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
20	10/1 (水) 1限	Joshua	Unit 5 Asking the patients to Describe Symptoms [講義]・[演習]・ [DVD視聴]	1) DVDを視聴して音声 と映像を通して内容 を理解し、映画の中 に出てきた文化的な 内容について討議す る。	(1) 前回学修した内容に対する質問に 答えることができ、説明できる。 (2) 視聴した映画の文化的な内容につ いて説明することができる。	映画の中で出 てきた文化的 な内容を確認 する。 (4 時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)
21	10/8 (水) 1限	Joshua	Unit 6 Asking Disease [講義]・[演習]	1) 本文の英語の内容 を理解する。	(1) 前回学修した内容に対する質問に 答えることができ、説明できる。 (2) 本文の英語を和訳し、内容を説明 することができる。	Unit 6の分か らない単語を 調べる。 (3 時間)	認知 (解釈)
22	10/15 (水) 1限	Joshua	Unit 7 Periodontal Disease [講義]・[演習]	1) 本文の英語の内容 を理解する。	(1) 前回学修した内容に対する質問に 答えることができ、説明できる。 (2) 本文の既習後の英語を正しく音読 することができる。	Unit 7を熟読 する。 (3 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
23	10/22 (水) 1限	Joshua	Unit 8 Pregnancy [講義]・[演習]・ [DVD視聴]	1) DVDを視聴して音声 と映像を通して内容 を理解し、映画の中 に出てきた文化的な 内容について討議す る。	(1) 前回学修した内容に対する質問に 答えることができ、説明できる。 (2) 視聴した映画の文化的な内容説明 することができる。	映画の中で出 てきた文化的 な内容を確認 する。 (3 時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)

健康の科学

開講時期	専攻科前期
授業時間数	15 コマ：30 時間 2 単位
受験資格要件	2/3（10 コマ）以上の出席
科目番号	HP211103
評価責任者	黒木まどか
授業担当者	岡田賢司、山野貴史、得能智武、川波 哲、園田英人、鳥巢浩幸、西尾 淳、大島裕司、古村南夫、田口智章

1. 一般目標

歯科保健医療における歯科衛生士の指導的人材として、必要とされる身体のしくみや全身疾患の理解について、「口腔医学」との関連を中心に理解する。また、保健指導や研究会・学会等の際に必要な解析・プレゼンテーション能力や問題解決能力を身につけることを到達目標とする。

2. 教育方法

講義・示説（教科書、プリント、PC+プロジェクター、模型、VTR） プレゼンテーション資料作成のための、図書館での医学系資料やインターネットを用いた検索等による自己学修。PC を用いたプレゼンテーションと質疑応答。

医療機関で患者に対して診療行為や口腔保健管理に関わった実務経験を生かした実践教育を行う。

3. 教育教材

プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

あらかじめ、本シラバスの内容を授業前に熟読し授業の主旨を理解しておくこと。特に、行動目標について理解を深め、主体的に学修に取り組むことが期待される。各授業担当者よりレポート課題を与えるので、授業後は配布資料や指定された論文等で講義内容の確認を行い、レポートを作成すること。レポートの提出期日を厳守すること。また本講義は専攻研究と関連があり、理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：60時間]

5. 評価方法

[総括的評価] 各授業のレポート（感想を含む：80%）[提出期間：講義日から7日間]、授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（20%）

[フィードバック] 提出されたレポートについては、評価後に返却し、解説をその都度行う。成績は評価後に通知する。

6. 教科書・テキスト

特に指定しない。適宜、講義用資料を配布し講義を進めていく。

7. 参考書

適宜、紹介する。

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標	行動目標	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	4/9 (水) 3限	田口	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解 (1) 講義	胆道閉鎖症について理解する。	1) 胆道閉鎖症の症状と診断について理解する。 2) 胆道閉鎖症の治療法について理解する。 3) 胆道閉鎖症の口腔内病変について理解する。 4) 開発国における現状を理解する。	講義内容の復習 (4 時間)	認知 (想起)
2	4/18 (金) 4限	園田 (外科)	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(2) 講義	がん(腫瘍)の発生と早期発見について理解する。	1) がん統計について理解する。 2) がん(腫瘍)の発生要因について理解する。 3) がん検診について理解する。	講義内容の復習 (4 時間)	認知 (想起)
3	4/25 (金) 3限	岡田	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(3) 講義	ワクチンについて理解する。	1) 予防接種の基本的な事項を理解する。 2) 予防接種が社会に与えてきた役割を説明できる。	講義内容の復習 (4 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標	行動目標	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	5/9 (金) 4限	園田 (外科)	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(4) 講義	がん治療の現状 について理解する。	1) がんの手術、薬物、放射線治療について理解する。 2) がん治療の合併症、副作用について理解する。 3) がんの予後と多職種連携の重要性について理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
5	5/14 (水) 3限	鳥巢 (小児科)	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(5) 講義	発達障害について 理解する。	1) 発達障害の各疾患の特徴を説明できる。 2) 発達障害児・者への対応を理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
6	5/21 (水) 3限	西尾 (整形外科)	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(6) 講義	骨粗鬆症について 理解する。	1) 骨粗鬆症の病態について理解する。 2) 骨粗鬆症の予防と治療について説明できる。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
7	5/28 (水) 3限	得能	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(7) 講義	心臓の構造と機能について理解 する。	1) 心臓の構造を理解する。 2) 循環障害、心不全を理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
8	6/6 (金) 3限	岡田	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(8) 講義	小児の口腔内病 変について理解 する。	1) 小児の主な疾患を理解する。 2) 口腔内に所見のある小児の疾患について説明できる。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
9	6/11 (水) 3限	山野	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解(9) 講義	嚥下障害について 理解する。	1) 嚥下障害とは何か、原因と病態を説明できる。 2) 嚥下障害の診断と治療方法について理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
10	6/18 (水) 3限	山野	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解 (10) 講義	耳鼻咽喉科領域 疾患について理 解する。	1) 耳鼻咽喉科領域の代表的な疾患について理解する。 2) 口腔・咽頭疾患について説明できる。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
11	6/25 (水) 3限	大島 (眼科)	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解 (11) 講義	眼疾患の症状や 疾患について理 解する。	1) 眼球および眼球付属器の解剖、生理について理解する。 2) 代表的な眼疾患の病態、治療について理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
12	7/2 (水) 3限	得能	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解 (12) 講義	循環器疾患の症 状や疾患について 理解する。	1) 心電図異常を理解する。 2) 狭心症、心筋梗塞について説明できる。 3) 弁膜症を理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
13	7/4 (金) 3限	古村 (皮膚科)	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解 (13) 講義	皮膚科学と歯科 診療の関わりについて 理解する。	1) アレルギー疾患について理解する。 2) 全身疾患の口腔粘膜・皮膚症状を理解する。 3) 皮膚の美容医学と歯科診療の関わりを理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
14	7/9 (水) 3限	川波	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解 (14)放射線学 講義	放射線診断学と 歯科診療の関わりについて 理解する。	1) 放射線診断学における歯科疾患と全身疾患の関わりについて理解する。 2) 放射線診断学に用いられる画像診断機器の役割について理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)
15	7/11 (金) 1限	田口	ユニット1 歯科領域における 全身疾患の理解 (15) 講義	肝臓移植・小腸 移植について理 解する。	1) 肝臓・小腸の働きを説明できる。 2) 肝臓・小腸移植の必要性について理解する。 3) 免疫抑制剤についての知識を持つ。特に薬剤と歯肉増殖について知識を整理する。 4) 臓器移植における口腔ケアの必要性について理解する。	講義内容の復 習 (4時間)	認知 (想起)

歯科看護学

開講時期	専攻科後期
授業時間数	8コマ：15時間 1単位
受験資格要件	2/3（6コマ）以上の出席
科目番号	HP211104
評価責任者	黒木 まどか
授業担当者	黒木 まどか

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として全身管理を視野に入れた実践をするために、看護学および歯科衛生学に共通する基本的知識・技術・態度を修得し、自己の医療人としての倫理観を確立するための基礎知識を理解する。また、保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について学ぶ。ケースベースドラニング手法を用いた多職種連携教育を通して、他職種を理解し、精神的・身体的健康障害を持つ対象者に、連携により口腔の健康（摂食・咀嚼・嚥下など）支援することが全身の健康支援になることを理解し、実践できる能力を身につける。

2. 教育方法

講義・演習・グループワーク討論を行う。

医療機関（病院等）などで勤務した実務経験を生かし、歯科衛生士、歯科医師、看護師との連携、口腔ケアの実践法、口腔アセスメント法の実践的教育を行う。

3. 教育教材

プリント、DVD+PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には、配布資料としてプリント等を配布する。事前学修（予習）を怠らないこと。看護学総論、歯科保健学、高齢者歯科学と関連付けた学修をする。授業中はノートを取る。授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守る。この授業は、歯科臨床実地の理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：32時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕 課題レポート（40％）、プレゼンテーション（50％）
授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言や協力）（10％）

〔フィードバック〕 試験結果（成績）は、課題レポート終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

適宜資料を配布する。

7. 参考書

- 水田祥代・窪田恵子監修 『授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新口腔ケア』 大道学館出版部
- 渋谷絹子・天竺光雄 他『系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[15] 歯・口腔』 医学書院
- 深井喜代子 著 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術II』 メヂカルフレンド社 山口瑞穂子 監修 『新訂版 看護技術講義・演習ノート上巻』 サイオ出版

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/26 (金) 2限 10:30- 12:00	黒木	オリエンテーショ ン ユニット 1 多職種との口腔ケ ア・歯科医療連携 〔講義〕	1) 多職種の学生との コミュニケーション を取ることができる。	(1)多職種連携の基本について理解する。 (2)自己紹介を通じて他職種の学生とコミュニケ ーションをとることができる。	多職種連携 のとらえ方 についてノ ートを書く。 (4時間)	認知 (想起・ 解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (G10)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
2	9/26 (金) 3限 12:50- 14:20	黒木	ユニット 1 多職種との口腔ケ ア・歯科医療連携 [講義]	2) 多職種連携のアプ ローチの目的、機能 について理解する。	(1) 介護施設医療、周術期医療、終末期医療、 在宅医療、精神医療における歯科医療・看護 歯科連携について、看護学生および歯学生と ともに学習する。 (2) 歯科・看護の多職種連携による口腔ケア・ 歯科医療・連携について学ぶ。	看護における口腔ケア の位置付け について調 べ、ノートに 書く。 (4時間)	認知 (想起・ 解釈)
3	9/26 (金) 4限 14:30- 16:00	黒木	ユニット 1 多職種との口腔ケ ア・歯科医療連携 [講義]	2) 多職種連携のアプ ローチの目的、機能 について理 解する。	(1) 介護施設医療、周術期医療、終末期医療、 在宅医療、精神医療における歯科医療・看護 歯科連携について、看護学生および歯学生と ともに学習する。 (2) 歯科・看護の多職種連携による口腔ケア・ 歯科医療・連携について学ぶ。	口腔ケアに おける歯科 衛生士の専 門性につい てまとめる。 (4時間)	認知 (想起・ 解釈)
4	9/26 (金) 5限 16:10- 17:40	黒木	ユニット 1 多職種連携の口腔 ケア・歯科医療・ 連携 [講義]	2) 多職種連携のアプ ローチの目的、 機能について理 解する。	(1) 介護施設医療、周術期医療、終末期医療、在 宅医療、精神医療における歯科医療・看護歯 科連携について、看護学生および歯学生とと もに学習する。 (2) 歯科・看護の多職種連携による口腔ケア・歯 科医療・連携について学ぶ。	全身の健康 支援都多職 種連携の関 係について まとめる。 (4時間)	認知 (想起・ 解釈)
5	10/6 (月) 3限 12:50- 14:20	黒木	ユニット 2 多職種連携におけ る歯科連携の検討 [グループ討議・プ レゼンテーション]	3) 症例に応じた口 腔ケア・アセスメ ントを実施でき、 歯科連携の必要 性について説明 できる。	(1) 介護老人福祉施設の入所者に対する多職種連 携の口腔ケア・医療について学習する。 (2) 周術期癌患者に対する多職種連携の口腔ケ ア・歯科医療について学習する。	担当症例に ついて調べ ノートにま とめる。 (4時間)	認知 (想起・ 解釈)
6	10/6 (月) 4限 14:30- 16:00	黒木	ユニット 2 多職種連携の歯科 連携の検討 [グループ討議・プ レゼンテーション]	3) 症例に応じた口 腔ケア・アセスメ ントを実施でき、 歯科連携の必要 性について説明で きる。	(1) 終末期癌患者に対する多職種連携の口腔ケ ア・歯科医療について学習する。 (2) 在宅療養患者に対する多職種連携の口腔ケ ア・歯科医療について学習する。	担当症例に ついて調べ ノートにま とめる。 (4時間)	認知 (想起・ 解釈)
7	10/6 (月) 5限 16:10- 17:40	黒木	ユニット 2 多職種連携の歯科 連携の検討 [グループ討議・プ レゼンテーション]	3) 症例に応じた口 腔ケア・アセスメ ントを実施でき、 歯科連携の必要 性について説明で きる。	(1) 精神疾患患者に対する多職種連携の口腔ケ ア・歯科医療について学習する。	担当症例に ついて調べ ノートにま とめる。 (4時間)	認知 (想起・ 解釈)
8	10/20 (月) 3限 12:50- 14:20	黒木	ユニット 3 多職種との口腔ケ ア・歯科医療連携 の実際 [プレゼンテーショ ン]	4) 介護施設医療、周 術期医療、終末期 医療、在宅医療、精 神医療における看 護・看護歯科連携 について説明で きる。	(1) 実際に病院・施設で多職種連携をしながら口 腔機能援助を実践している看護師の活動内容 を学ぶ。	本授業の受 講を通じて 学んだこと をまとめる。 (4時間)	認知 (想起) 態度 (内面化)

【専攻研究】の授業内で実施

1	10/20 (月) 1限 8:50- 10:20	黒木	ユニット 3 多職種との口腔ケ ア・歯科医療連携 の実際 [プレゼンテーショ ン]	5) 脳血管疾患の病 理と病態に説明で きる。	(1) 脳血管疾患の病理と病態について学習す る。	脳血管疾患 についてま とめる。 (4時間)	認知 (想起) 態度 (内面化)
2	10/20 (月) 2限 10:30- 12:00	黒木	ユニット 3 多職種との口腔ケ ア・歯科医療連携 の実際 [プレゼンテーショ ン]	5) 麻痺のある患者 のリハビリテーシ ョンについて説明 できる。	(1) 麻痺のある患者のリハビリテーションにつ いて学習する。 (2) 在宅医療の現場について学習する。	麻痺患者に 対するリハ ビリテーシ ョンについ てまとめる。 (4時間)	認知 (想起) 態度 (内面化)

口腔介護特論

開講時期： 専攻科後期
 授業時間数： 15 コマ：30 時間 2 単位
 受験資格要件： 4/5 (12 コマ) 以上の出席
 科目番号： HP211201
 評価責任者： 黒木まどか
 授業担当者： 堀部、馬場、泉、後藤、井上、黒木、
 石井、南、川尻、高木、常清、中園、
 古野、秋竹

1. 一般目標

平成18年度改正の介護保険法は予防重視型システムに転換され、それに盛り込まれた介護予防3本柱の一つに「口腔機能の向上支援」がある。要支援・要介護に陥るのを予防するには口腔機能が重要であることが介護の分野でも認識され、歯科が介護保険に参入するというエポックメイキングな改正でもあった。それまでの口腔ケアは、おもに誤嚥性肺炎を予防するための器質的口腔ケアとして捉えられていたが、この改正以降は介護予防やフレイル予防のための口腔機能向上支援（機能的口腔ケア）が大きくクローズアップされている。また、平成30年度の診療報酬改正において、口腔機能発達不全症と口腔機能低下症が保険収載され、乳幼児期からの口腔機能の成育および高齢期での口腔機能低下予防の必要性が示された。そのため、口腔機能の育成・維持・向上へ対応できる歯科衛生士の需要も高まっている。

“口腔介護特論”では、“食べる機能（摂食嚥下機能）”と“機能的口腔ケア”の目的および口腔リハビリテーションの方法について学び、「地域口腔介護実習」の授業とも連動して、地域在住の①乳幼児期、②青年期、③高齢期の人々を対象とする“口腔機能育成・維持・向上セミナー”（集団指導および個別指導）を企画立案し、リハーサル、実演を通して、各ライフステージにおける口腔機能管理実践能力を修得することを目指す。

2. 教育方法

第1回～第5回には口腔機能、摂食嚥下機能の障害および口腔リハビリに関する講義を実施する。第6回からは①乳幼児期、②青年期、③高齢期に分かれ、それぞれに口腔機能育成・維持・向支援をメインテーマとするセミナー（集団指導および個人指導）を企画立案し、アクティブラーニング形式により集団指導の媒体作製を行い、その成果を公開発表会においてプレゼンテーションする。

3. 教育教材・テキスト

教科書、テキスト、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業後は、教科書やテキスト、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。プレゼンテーションの準備を怠らないこと。本授業は、口腔保健管理学、地域口腔介護実習、歯科臨床実地と関連があり、理解が不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕 プレゼンテーション(100%)のルーブリック評価

〔フィードバック〕 評価終了後に通知する。

6. 教科書

特に指定しない。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/10 (水) 2限	堀部	ユニット1 口腔の機能1 〔講義〕	1) 食べる機能（摂食・嚥下機能）の解剖・生理および加齢による変化を理解する。	(1) 健常者（乳幼児期・青年期・成人期・高齢期）の食べる機能（摂食・嚥下機能）の解剖・生理の概要を図を用いて説明できる。	摂食・嚥下機能について高齢者歯科の教科書を復習（4時間）	認知 (想起)
2	9/10 (水) 4限	堀部	ユニット2 食べる機能の障害 〔講義〕	1) 食べる機能（摂食・嚥下機能）の障害と検査法を理解する。	(1) 摂食嚥下機能の検査法の種類と方法を概説できる。	前回の配布プリント等を用いて復習（4時間）	認知 (想起)
3	9/17 (水) 2限	堀部	ユニット3-1 口腔リハビリ1 〔講義〕・〔グループワーク〕	1) 食べる機能の認知期・準備期・口腔期における障害への対応として間接訓練を理解する。	(1) 摂食嚥下機能障害の種類に応じた間接訓練を概説できる。	前回の配布プリント等を用いて復習（4時間）	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	9/19 (金) 3限	堀部	ユニット3-2 口腔リハビリ 2 [講義]・[グル ープワーク]	1) 歯科衛生士が実施する 口腔リハビリの実際を 理解する。	(1) 各種の口腔機能リハビリテーションの概 要を説明し、実施できる。	前回の配布プ リント等を用 いて復習 (4時間)	認知 (想起)
5 ・ 6	10/10 (金) 3,4限	堀部 黒木 常清	ユニット4-1 口腔介護研究1 オリエンテー ション [講義]・[アク ティブラーニ ング]	1) ①乳幼児期グループ、 ②青年期グループ、 ③高齢期グループに分 かれ、口腔機能育成・ 維持・向上支援セミナー（集団指導および個 人指導）を各グループ で企画立案する。	(1) 口腔機能育成・維持・向上支援に関わる セミナーのテーマを決め、その概要を説 明できる。 【各グループの対象者】 ①乳幼児期グループ： ぺんぎん保育園の5歳児および保育士 ②青年期グループ： 福岡市立高等学校生徒 ③高齢期グループ： 田村地区在住高齢者 ※12月以降は「地域口腔介護実習」の口腔 機能育成・維持・向上支援に関する研修会 の企画・開催の第10回～17回に継続してプ レゼンを作成し、リハーサルを実施する。	インターネッ トや参考書か ら、口腔機能 育成・維持・ 向上支援に関 する教育セミ ナータイトル を検討する。 (8時間)	認知 (想起) 精神・運 動 (模倣)
7 ・ 8	10/31 (金) 3,4限	堀部 黒木 常清	ユニット4-2 口腔介護研究1 リハーサル準 備 [アクティブラ ーニング]	2) ①乳幼児期グループ、 ②青年期グループ、 ③高齢期グループに分 かれ、口腔機能育成・ 維持・向上支援セミナー（集団指導および個 人指導）を各グループ で企画立案する。	(1) セミナーの課題に関連する先行研究を調 べ、その概要を説明できる。 (2) セミナーの企画書（計画書）を作成し、 概要を説明できる。	セミナーの課 題に関連する 先行研究を調 べる。 (8時間)	認知 (想起) 精神・運 動 (模倣)
9 ・ 10 ・ 11	11/21 (金) 1-3限	堀部 馬場 泉 後藤 井上 黒木 石井 南 川尻 高木 常清 中園 古野 秋竹	ユニット4-3 口腔介護研究2 リハーサル1 [アクティブラ ーニング]	3) 結果をまとめる プレゼンテーションの 作成。 結果をまとめる。	(1) サブグループ（3～4人）のアクティブ ラーニング形式により、セミナー用パワ ーポイントを作成する。	インターネッ トや参考書か ら、教育セミ ナー用図表等 を探す。 (8時間)	認知 (想起) 精神・運 動 (模倣)
12 ・ 13 ・ 14	12/12 (金) 1-3限	堀部 馬場 泉 後藤 井上 黒木 石井 南 川尻 高木 常清 中園 古野 秋竹	ユニット4-4 口腔介護研究2 リハーサル2 [アクティブラ ーニング]	4) ①乳幼児期グループ、 ②青年期グループ、 ③高齢期グループに分 かれ、口腔機能育成・ 維持・向上支援セミナー（集団指導および個 人指導）を各グループ で企画立案する。	(1) セミナーの企画書（計画書）を作成し、 概要を説明できる。 (2) サブグループ（3～4人）のアクティブ ラーニング形式により、セミナー用パワ ーポイントを作成する。	インターネッ トや参考書か ら、教育セミ ナー用図表等 を探す。 (8時間)	認知 (想起) 精神・運 動 (模倣)
15	①乳幼児 ②青年期 ③高齢期 1/19 (月) 1/23 (金) 1/26 (月) 1-3限	堀部 馬場 泉 後藤 井上 黒木 石井 南 川尻 高木 常清 中園 古野 秋竹	ユニット4 口腔介護研究3 セミナー実施 [アクティブラ ーニング]	1) ①乳幼児期グループ、 ②青年期グループ、 ③高齢期グループに分 かれ、口腔機能育成・ 維持・向上支援をメイ ンテーマとするセミナー（集団指導および個 人指導）を各グループ で開催する。	(1) グループ別に口腔機能育成・維持・向上 支援をメインテーマとするセミナー（集 団指導および個人指導）を実演する。	セミナー実施 後の振り返り。 (12時間)	情意 (受入) 精神・運 動 (模倣)

口腔保健管理学

開講時期	専攻科前期
授業時間数	15 コマ：30 時間 2 単位
受験資格要件	2/3 (10 コマ) 以上の出席
科目番号	HP211202
評価責任者	中園栄里
授業担当者	吉永、大城、今井、縄田、 原口、菊村、矢田部

1. 一般目標

歯科保健指導の一環として成人期の歯周病予防・治療法、メインテナンスプログラムとその実践方法ならびに周術期・急性期や地域保健活動の中で、科学的根拠のもと実施される口腔健康管理の手法と歯科衛生士の役割を理解し、実践するための思考力と判断力を養うことを目標とする。

2. 教育方法

論文、スライド、プリントによる講義、グループワーク、相互学習など

3. 教育教材

プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。相互学習やグループワーク、症例検討等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げること。

連続した授業には、配布プリントを必ず持参すること。

本科目は3年間の学びの中で学修したことがベースとなるので、事前に理解を深めておくことが必要となる。準備学習を行うことにより歯科衛生士としての役割を理解し、本科目に興味を持ち意欲的に取り組んでくれることを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕 授業態度(20%) レポート(80%)

〔フィードバック〕 試験結果（成績）は、課題レポート提出終了の後に通知する。

6. 教科書・テキスト

特に指定はしない。その都度、講義に適した論文、総説を通知する。

7. 参考書

1 日本歯周病学会編『歯周治療の指針2015』医歯薬出版

（日本歯周病学会ホームページからPDFファイルを無料でダウンロードできる）

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と必要時間	教育 目標 領域
1	4/9 (水) 4限	吉永	ユニット1-1 歯周病の発症機序 と宿主免疫応答 〔講義〕	1) 歯周病はどのよう に発症し進行する のか理解する。	(1) 歯肉炎の発症と歯周炎への進展、および修飾 因子（局所のリスクファクター）について説 明できる。 (2) 歯周病の診断マーカーについて説明できる。 (3) 宿主免疫応答の観点から歯周病の発症と進行 を説明できる。	歯周疾患の発病 と宿主免疫応答 について調べ る。 (4 時間)	認知 (解釈)
2	4/16 (水) 4限	吉永	ユニット1-2 歯周病と全身の関 連 〔講義〕	2) 歯周病と全身との 関連を理解する。	(1) 歯周病の進行と悪化に及ぼす全身因子（全身 のリスクファクター）を説明できる。 (2) 歯周病が全身に及ぼす影響を説明できる。 (3) 糖尿病と歯周病の深い関連を説明できる。	歯周病と全身の 関連について調 べる (4 時間)	認知 (解釈)
3	4/23 (水) 4限	大城	ユニット1-3 歯周病の治療(1) 歯周病の診査・診 断・治療計画 〔講義〕	3) 歯周病の診査・診 断法・治療計画に ついて理解する	(1) 各種診査法、評価法を説明できる。 (2) 診断の必要性を理解する。 (3) 治療計画を立案できる。	歯周病の診査・ 診断・治療計 画について調べ る。 (4 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と必要時間	教育 目標 領域
4	4/30 (水) 4限	大城	ユニット1-4 歯周病の治療(2) 歯周基本治療 [講義]	4) 歯周基本治療の概念及び種類・方法を理解する。 再評価の意義を理解する。	(1)原因除去に基づいた基本治療の内容を説明できる。〔ブラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整、暫間固定等〕 (2)再評価の意味を述べることができる。 (3)外科処置あるいはメンテナンスへの移行について説明できる。	基本治療及び再評価の意味について調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
5	5/7 (水) 4限	吉永	ユニット1-5 歯周病の治療(3) 歯周外科治療 [講義]	5) 歯周外科治療の種類と方法を理解する。 歯周病の治癒について理解する。	(1)歯周外科治療の種類と方法を説明できる。 (2)SPT/メンテナンスについて説明できる。 (3)ライフステージと歯周病について説明できる。	歯周外科治療及び治療の評価について調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
6	5/14 (水) 4限	大城	ユニット2-1 歯周管理 [講義]	1) 我が国の医療保険制度を理解する。	(1)我が国の医療保険制度(歯科を含む)について概説できる。 (2)我が国の医療保険制度(歯科を含む)の課題について説明できる。	我が国の医療保険制度の課題について調べる。 (4時間)	認知 (問題解決)
7	5/21 (水) 4限	菊村	ユニット3-1 周術期口腔健康管理 [講義]	1) 周術期の患者に対する歯科衛生士の口腔健康管理について理解する。	(1)周術期の患者に対する口腔健康管理の内容について概説できる。 (2)口腔健康管理による効果を述べる。 (3)他職種との連携における歯科衛生士の役割を説明する。	周術期の患者に対する口腔健康管理の意義とその効果、多職種連携における歯科衛生士の役割について調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
8	5/16 (金) 3限	今井	ユニット4-1 急性期口腔健康管理(1) [講義]	1) 急性期の患者に対する歯科衛生士の口腔健康管理について理解する。	(1)急性期の患者に対する口腔健康管理の内容について概説できる。	急性期の患者に対する口腔健康管理の意義について調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
9	6/27 (金) 3限	今井	ユニット4-1 急性期口腔健康管理(2) [講義]		(2)口腔健康管理による効果を述べる。 (3)他職種との連携における歯科衛生士の役割を説明できる。	急性期の患者に対する口腔健康管理の効果について調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
10	6/11 (水) 4限	縄田	ユニット4-1 急性期口腔健康管理(3) [講義]・[相互学習]	1) 急性期の患者に対する歯科衛生士の口腔健康管理について理解する。	(4)急性期患者の口腔健康管理に必要な知識・技術力・指導力について説明できる。 (5)症例供覧	供覧された症例についてまとめる。 (4時間)	認知 (問題解決)
11	6/18 (水) 4限	原口	ユニット5-1 地域口腔健康管理(1) [講義]・[グループワーク]	1) 地域住民に対する歯科衛生士の口腔健康管理について理解する。	(1)地域で歯科衛生士が行う口腔健康管理の内容について概説できる。 (2)口腔健康管理による効果を述べる。	地域における歯科衛生士の役割について調べる。 (4時間)	認知 (解釈)
12	6/25 (水) 4限	原口	ユニット5-2 地域口腔衛生管理(2) [講義]・[グループワーク]	2) 地域住民に対する歯科衛生士の口腔健康管理について理解する。	(1)他職種との連携における歯科衛生士の役割を説明できる。	地域で行う口腔健康管理の効果についてまとめる。 (4時間)	認知 (問題解決)
13	7/2 (水) 4限	矢田部	ユニット6 歯科領域における全身疾患の理解 [講義]・[実習]	1) データ分析の基礎を理解する。	(1)医療にまつわるトピックについてディスカッションすることができる (2)自分の考えをまとめることができる (3)日本語の論文を読み取ることができる (4)英語の論文を読み取ることができる	予習では、配布された講義資料に目を通し、授業で用いる資料等を準備する。 復習では、データ解析についてのまとめ、振り返り等を行うとともに、レポートの作成・講評結果の振り返りを行う。 (各回4時間を目安とする)	情意 (受入) 精神・運動 (コントロール)
14	7/9 (水) 4限	矢田部	ユニット6 歯科領域における全身疾患の理解 [講義]・[実習]	1) データ分析の基礎を理解する。			認知 (解決) 精神・運動 (コントロール)
15	7/16 (水) 4限	矢田部	ユニット6 歯科領域における全身疾患の理解 [講義]・[実習]	1) データ分析の基礎を理解する。			認知 (解釈) 精神・運動 (コントロール)

先端臨床歯科学

開講時期	専攻科前期
授業時間数	15 コマ：30 時間 2 単位
受験資格要件	2/3 (10 コマ) 以上の出席
科目番号	HP211203
評価責任者	泉 喜和子
授業担当者	泉 喜和子、橋本憲一郎 堀之内康文、藤本純、山道研介 尾崎正雄、古賀千尋 田口智章、中園栄里

1. 一般目標

歯科医療技術における研究が急速に進み、現在臨床応用が盛んに行われている顎変形症の外科的矯正治療、口腔がん、インプラント治療、矯正歯科治療（アライナー矯正）など、先端歯科医療の理論、治療法、術式・術後管理等を理解する。さらに、最近注目されている再生医療、睡眠時無呼吸症候群、歯科心身症への対応、患者型ロボットを導入した危機管理についても現状と展望について理解することを到達目標とする。

2. 教育方法

スライド、論文、プリントによる講義を行う。

3. 教育教材

配布プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

本講義を理解する上で口腔外科学、口腔インプラント学、歯周病学、保存修復学、矯正歯科学、情報処理概論等の知識が必要である。下記の各授業内容項目に記載された対応科目に目を通すなど、事前学習（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。各授業担当者よりレポート課題を与えるので、授業後は配布資料や指定された論文等で講義内容の確認を行い、レポートを作成すること。レポートの提出期日を厳守すること。また本講義は専攻研究と関連があり、理解に不可欠である。

【単位取得に必要な授業外学修時間：60時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕 授業態度(20%) レポート(80%)

〔フィードバック〕 成績は、評価終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

特に指定はしない、その講義に適した論文、総説等を用いる。

7. 参考書

1. 新刊 歯科衛生士講座 口腔外科の治療と診療補助 永末書店 2023
2. 和気裕之、渋谷智明、目加田まり 著『デンタルスタッフのための歯科心身症ガイドブック』医歯薬出版 2015
3. 日本口腔インプラント学会 『口腔インプラント治療指針2020』『口腔インプラント学学術用語集第4版』（学会ホームページで無料ダウンロード可能）

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と必要 時間	教育 目標 領域
1	4/9 (水) 2限	泉	ユニット1 顎変形症 [講義]	1) 外科的矯正治療の流れ・顎矯正手術の見識を深め、口腔筋機能訓練の必要性を理解する。	1) 外科的矯正治療の流れを説明できる。 2) 顎矯正手術を説明する。 3) 歯科衛生士としての対応を述べる。	講義内容の復習 (4 時間)	認知 (解釈)
2	4/16 (水) 2限	橋本	ユニット2-1 口腔がん [講義]	1) 診査・診断法・治療計画について理解する。	1) 各種診査法、評価法を述べる。 2) 診断の必要性を述べる。 3) 治療計画を説明する。	講義内容の復習 (4 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と必要 時間	教育 目標 領域
3	4/23 (水) 2限	橋本	ユニット2-2 感染対策ICT [講義]	1)感染症を理解する。	1)感染のメカニズムを概説できる。 2)感染経路対策の基礎を説明できる。 3)感染症の種類を説明できる。 4) 歯科医療従事者と感染症の関係を説明できる。 5)事例供覧	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
4	4/30 (水) 3限	堀之内	ユニット3 病院歯科における治療 [講義]	1)病院における歯科の役割を理解する。	1)病院歯科の位置付けを概説できる。 2) 医科歯科の連携、歯科衛生士としての役割を説明できる。	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
5	5/7 (水) 2限	藤本	ユニット4-1 口腔インプラント治療(1) [講義]	1)種類と構造、手順を理解する。	1)画像検査・診断・その他の検査を説明できる。 2) 治療計画の段階を説明できる。 3) 患者への説明内容を説明できる。 4)インプラント埋入手術の手順を説明できる。	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
6	5/14 (水) 2限	藤本	ユニット4-2 口腔インプラント治療(2) [講義]	1)歯科衛生士の役割を理解する。		講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
7	5/21 (水) 2限	山道	ユニット5-1 アライナー矯正治療の臨床 [講義]	1)アライナーによる矯正治療を理解する。	1)インビザラインシステムをはじめとしたアライナー矯正治療の適応症と治療概要を説明できる。 2)アライナー矯正中における口腔ケアを説明できる	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
8	5/28 (水) 2限	山道	ユニット5-2 睡眠時無呼吸症候群(SAS) [講義]	1)睡眠時無呼吸症候群の概要、症状、診断、治療、予後について理解する。	1)SASの定義、分類、頻度を説明できる。 2)SASの病態、臨床症状、診断について説明できる。 3)SASの治療、予後を説明できる。	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
9	6/4 (水) 3・4 限	尾崎	ユニット6 歯科における危機管理(患者型ロボットを用いて) [講義・実習]	1)歯科における危機管理について、患者型ロボットを通して理解する。	1)歯科における危機管理を説明できる。 2)患者型ロボット研究を概説できる。 3)患者型ロボット実習において学ぶ危機管理を理解する。 4)アナフィラキシーショックおよび局所麻酔中毒に対する緊急時対応の手順を説明できる。 5)緊急対応に必要な機器を列挙できる。	講義内容の 復習 (8 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
10							
11	6/11 (水) 2限	古賀	ユニット7-1 歯科心身症(1) [講義]	1)歯科心身症の概要を理解する。	1)歯科心身症について概説できる。 2)代表的な歯科心身症の種類を説明できる。 3)症状を説明できる。	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
12	6/18 (水) 2限	古賀	ユニット7-2 歯科心身症(2) [講義]	1)歯科心身症患者を実際の症例を通して理解する。	1)実際の症例から歯科心身症を理解する。 2)歯科衛生士としての対応法を説明できる。	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
13	6/25 (水) 2限	田口	ユニット8-1 再生医療(総論) [講義]	1)幹細胞の種類と特徴について理解する	1)主要幹細胞3種類について特徴について理解する 2)癌幹細胞の存在を理解する	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
14	7/11 (金) 2限	田口	ユニット8-2 再生医療(臨床応用) [講義]	1)再生医療の臨床応用に関して知識を広げる。	1)歯髄再生療法を説明できる 2)歯髄幹細胞を理解する 3)幹細胞の臨床応用について概説できる。	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)
15	7/4 (金) 4限	中園	ユニット9-1 口腔保健統計 [講義]	1)保健統計を理解する。	1)歯科保健統計の種類を述べる。 2)情報の分析手法を説明できる。	講義内容の 復習 (4 時間)	認知 (解釈)

専 攻 研 究

開講時期	専攻科通年
授業時間数	60 コマ：120 時間 8 単位
受験資格要件	2/3 (40 コマ) 以上の出席
科目番号	HP211204
評価責任者	黒木まどか
教員	田口、堀部、馬場、泉、後藤、 井上、古野、石井、南、秋竹、 川尻、森、常清、中園、黒木

1. 一般目標

口腔保健衛生学は生涯にわたって口腔領域の健康を維持・増進し、また口腔機能の回復を図り、人々の健康を支援するための理論や知識、技術に関する学問領域である。本科目は、歯科衛生学科の3年間および専攻科において学んだ知識と技術の総括として、臨床歯科医学（口腔治療系、咬合修復・歯科材料系、口腔機能系）および口腔保健管理学の中から学生が選択した分野において、指導教員のもとで研究課題を模索し研究を実施することを通して、批判的、合理的な思考力や、生涯にわたって学び続ける力および主体的に考える力を培う。

2. 教育方法

研究課題を決め、計画に沿ってアクティブラーニング形式により、研究論文（学習成果レポート）を作成する。

研究成果をプレゼンテーションにより発表する。

文献抄読では、選択論文 1 編、指定論文 1 編を要約し、プレゼンテーションによる発表を行う。

◎口腔機能系（田口、馬場、泉、中園、井上、川尻）

歯科矯正治療における口腔保健管理、口腔周囲筋機能と矯正治療、顎矯正手術患者の周術期管理、小児歯科における口腔保健管理

◎咬合修復・歯科材料系（後藤、石井、秋竹）

補綴・インプラント治療における歯科衛生士の役割、義歯安定剤について、補綴治療における接着技術の現状と展望、義歯の取り扱いと管理法、歯科保湿剤・歯磨剤・洗口剤について

◎口腔保健管理学（堀部、黒木、古野、南、森）

う蝕予防のための口腔保健管理、歯周疾患予防のための口腔保健管理、口腔機能向上支援における歯科衛生士の役割、各ライフステージにおける口腔保健管理と歯科衛生士の役割、周術期における口腔保健管理と歯科衛生士の役割、終末期における口腔保健管理と歯科衛生士の役割

3. 教育教材

プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。プレゼンテーションの準備を怠らないこと。

【単位修得に必要な授業外学修時間：120時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕 ①指定論文/選択論文の抄読会発表（10%）、②研究成果プレゼンテーション（15%）、③研究論文（60%）および④研究指導（15%）について、それぞれの評価の観点に基づき評価（ルーブリック評価）し、①～④の評点の合計が70点以上を合格とする。

〔フィードバック〕 評点は評価終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

特に指定はしない

【前期（30 コマ）】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1 7	4/4 1限 4/8 3-4限 4/10 3限 4/16 3限 4/18 1-2限	黒木 中園	ユニット1 研究課題 研究計画 [アクティブラーニング]	1) 自身の興味関心のある課題を整理する。 2) 先行研究を整理する。 3) 要約する。	1) 興味関心のある分野について述べるができる。 2) 関連するキーワードを5つ抽出する。 3) 先行研究を検索することができる。 4) 特に関連する研究を2編選出する。 5) 先行研究から現在の課題を整理することができる。 6) 研究の社会的意義を説明することができる。	配布資料を精読し、復習する。 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
8 21	4/21 3-4限 4/23 3限 4/25 4限 5/9 3限 5/12 3限 5/16 1限 5/23 1限 5/23 3限 5/30 3限 6/2 3限 6/6 1限 6/9 3限 6/13 1限 6/13 3限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット2 研究テーマ・プロセスの決定 [アクティブラーニング]	1) 研究テーマを決定する。 2) 「テーマの着想に至った「背景」「目的」について理解する。 3) 研究方法を決定する。	1) 自分の研究テーマを1つに絞り込むことができる。 2) 研究の着想をもつことができる。 3) 研究の背景を述べるができる。 4) 研究のアプローチを述べるができる。 5) 研究の目的を述べるができる。 6) 研究の意義を述べるができる。 7) これまでの学習との関連を説明できる。 ※[特例]6/13(金)履修計画書の完成	配布資料を精読し、復習する。 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
22 30	6/13 3限 6/20 2-3限 6/23 3限 6/27 1限 6/30 3限 7/11 1限 7/14 3限 7/18 1限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット3 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果をレポートにまとめる	1) 先行研究から現在の課題を整理することができる。 2) 研究の社会的意義を説明することができる。 3) 研究テーマに関連する文献を分析できる。 4) 発見した知見をレポートにまとめる。 ※[特例]6/20 学位授与機構申請データ入力 6/27 データ修正/申請登録完了	配布資料を精読し、復習する。 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

【後期（30 コマ）】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1 8	8/28 3限 8/29 1限 8/29 3限 9/5 1-2限 9/8 3限 9/12 1-2限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット4 文献抄読(1) [アクティブラーニング]	1) 指定論文・選択論文を要約する。 2) 指定論文・選択論文の要約を発表する。 [ループリック評価]	1) 指定論文・選択論文についてプレゼンテーションできる。 2) 発表内容を理解することが出来る。 3) 他者の発表内容に対し意見を述べるができる。 ※[全員]8/29(金)指定論文プレゼン媒体提出 9/8(月)選択論文プレゼン媒体提出	配布資料を精読し、復習する。 (3時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
9	9/19 (金) 1限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果をレポートにまとめる	1) 先行研究から現在の課題を整理することができる。 2) 研究の社会的意義を説明することができる。	配布資料を精読し、復習する。 (2時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
10	9/22 (月) 3限	黒木 中園	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 先行研究をレポートにまとめる	1) 先行研究から現在の課題を整理することができる。 2) 研究の社会的意義を説明することができる。 ※[認定]学修成果の要旨およびレポート(論文)完成版提出(データ: Word、PDF)	配布資料を精読し、復習する。 (2時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
11	9/24 (水) 2限	黒木 中園	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果をレポートにまとめる	1) 研究テーマに関連する文献を分析できる。 2) 発見した知見をレポートにまとめる。 ※[認定]学位授与機構申請登録および書類郵送	配布資料を精読し、復習する。 (2時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
12 15	9/29 3限 10/3 3限 10/10 1限 10/17 1限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果をレポートにまとめる	1) 研究テーマに関連する文献を分析できる。 2) 発見した知見をレポートにまとめる。	配布資料を精読し、復習する。 (3時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育 目標 領域
16 17	10/20 (月) 1-2限	黒木	ユニット6 プレゼンテーション1 [アクティブラーニング]	1) 専門職連携による患者治療・ケアについて発表することができる	1) 対象者の治療・ケアのあり方について、歯科医師学生・看護師学生と話し合うことができる。 2) 自身の職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を学生の立場から説明できる。	「脳血管疾患」および「麻痺患者に対するリハビリテーション」についてまとめる。 (4時間)	認知 (想起) 態度 (内面化)
18	10/24 (金) 3限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果をレポートにまとめる	1) 研究テーマに関連する文献を分析できる。 2) 発見した知見をレポートにまとめる。 3) [認定]自身の論文内容に関連した学位授与機構筆記試験予想問題を作成し、回答をまとめる。	配布資料を精読し、復習する。 (3時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
19 20	10/27 3限 10/29 1限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 井上 古野 石井 南 秋竹 川尻 森 常清 中園 黒木	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果をレポートにまとめる	1) 研究テーマに関連する文献を分析できる。 2) 発見した知見をレポートにまとめる。 3) [認定]自身の論文内容に関連した学位授与機構筆記試験予想問題を作成し、回答をまとめる。	配布資料を精読し、復習する。 (4時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
21 23	11/5 4限 11/12 1限 11/26 2限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果をレポートにまとめる 2) 成果のレポートを完成させる [ループリック評価]	1) 研究テーマに関連する文献を分析できる。 2) 発見した知見をレポートにまとめる。 3) 研究成果レポートを完成させる 4) 論文審査受審準備 ※[全員]11/26(水)17:00までに準備 学修成果レポート(論文)および要旨完成版提出 紙3部(12/1~12/15学内審査)	配布資料を精読し、復習する。 (3時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
24 25 26	12/10 1限 12/17 1限 12/24 3限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット5 レポートまとめ(1) [アクティブラーニング]	1) 研究成果のプレゼンテーションを作成する 2) 発表抄録を作成する 3) 発表抄録を作成する 4) 成果のレポートを完成させる	1) 研究成果レポートの修正 2) 発表抄録を作成する 3) 成果の要旨を作成する(特例)。 ※12/24(水)17:00まで [全員]発表抄録完成版 データ(Word、PDF)提出	配布資料を精読し、復習する。 (3時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
27	1/8 (木) 2限	黒木 中園	ユニット6 抄録・プレゼンテーション2・成果の要旨作成 レポート校正 [アクティブラーニング]	1) 研究成果のプレゼンテーションを作成する 2) 成果の要旨をまとめる 3) 成果のレポートを完成させる	1) プレゼンテーションを完成させる。 2) 成果の要旨を作成する。(特例) ・評価シート準備 ・プレゼンテーションの試写 ※[全員]16:00まで:スライドデータ(PP)担任提出	配布資料を精読し、復習する。 (2時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
28 29	1/9 (金) 1-2限	田口 堀部 馬場 泉 後藤 黒木 中園	ユニット7 専攻研究発表 [アクティブラーニング]	1) 研究成果をプレゼンテーションにより発表する [ループリック評価]	(1) 研究成果プレゼンテーションの発表 ※[特例]17時まで 成果の要旨提出②(紙2部→担任→主・副指導者) ※1/22(水)17時までにデータ(Word、PDF)提出 [特例]成果の要旨 完成版 [全員]学修成果レポート(論文)及び要旨 論集版	配布資料を精読し、復習する。 (3時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
30	1/28 (水) 3限	黒木 中園	ユニット7 専攻研究まとめ [アクティブラーニング]	1) 研究成果を成果の要旨にまとめる [ループリック評価]	(1) 発表会の指摘に基づき論文を修正する。 (2) 成果の要旨を完成させる。 (3) 学位授与機構申請手順を理解する。 (4) 履修科目の単位取得状況を入力する。 17時まで ※[全員]学修成果レポート(論文)及び要旨 論集版 データ(Word、PDF)提出 ※[特例]成果の要旨 提出	配布資料を精読する。 (3時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

地域口腔介護実習

開講時期	専攻科後期
授業時間数	23 コマ：45 時間 1 単位
受験資格要件	4/5 (19 コマ) 以上の出席
科目番号	HP211205
評価責任者	黒木まどか
授業担当者	堀部、馬場、泉、後藤、井上、黒木、石井、南、川尻、高木、常清、中園、古野、秋竹

1. 一般目標

地域を主体とする疾病予防や健康増進からリハビリテーションに至る包括的な保健・医療・福祉が求められている。平成18年度改正介護保険には“口腔機能の向上”が介護予防の一つとして取り上げられ、地域の介護施設等の現場で歯科衛生士が多職種と連携をとりながら、要介護高齢者に対して器質的・機能的口腔ケアを実践する場面が増えている。また、平成30年度の診療報酬改正において、口腔機能発達不全症と口腔機能低下症が保険収載され、乳幼児期からの口腔機能の育成および高齢期での口腔機能低下予防の必要性が示され、口腔機能の育成・維持・向上へ対応できる歯科衛生士の需要が高まっている。

本実習は(1)「歯科予防処置実習Ⅴ」及び「歯科診療補助実習Ⅳ」における教育実習(12時間)、(2)乳幼児期、青年期、高齢期の地域住民を対象とする口腔機能育成・維持・向上支援に関する研修会(セミナー)の企画および開催(34時間)により構成し、45時間1単位とする。これらの履修により、地域における幅広いライフステージの対象者に対応できる口腔健康管理の専門知識と技術を修得する。

2. 教育方法

1. 歯科衛生学科2年次後期の「歯科予防処置実習Ⅴ」及び「歯科診療補助実習Ⅳ」にアシスタントティーチャーとして参加し、実技指導を行う。専攻科生を2グループに分け、それぞれ3回(4時間×3回=12時間)以上を担当する。内容は①器質的口腔ケア、②機能的口腔ケアに対する対応である。
2. ①乳幼児期グループ、②青年期グループ、③高齢期グループに分かれ、それぞれに口腔機能育成・維持・向上支援をメインテーマとするセミナー(集団指導および個人指導)を企画立案し、アクティブラーニング形式により集団指導の媒体作製を行い、その成果を公開発表会においてプレゼンテーションする。口腔機能育成・維持・向上支援に関する研修会の企画および開催(34時間)

3. 教育教材

教科書、テキスト、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業後は、教科書やテキスト、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。プレゼンテーションの準備を怠らないこと。

【単位修得に必要な授業外学修時間：11時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕 プレゼンテーション(100%)のルーブリック評価

〔フィードバック〕 成績は評価終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

特に指定しない。

【歯科衛生学科2年次の「歯科予防処置実習Ⅴ」及び「歯科診療補助実習Ⅳ」における口腔衛生管理や口腔機能管理に関連した授業での教育実習(6コマ12時間)】

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目と必要時間	教育目標領域
1 2	Aグループ 10/31 (金) 1,2限	石井	ユニット1 教育実習(AT1) 口腔ケア(スポンジブラシ)	1)口腔全身介護技術の指導方法を理解する。	(1)歯科衛生学科の学生に対して口腔全身介護技術の実習指導が出来る。 ① 器質的口腔ケア ② 機能的口腔ケア	摂食・嚥下機能について高齢者歯科の教科書を復習(2時間)	精神・運動(模倣)情意(受入)
	Bグループ 11/4 (火) 1,2限	石井	[アクティブラーニング]				

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習項目と 必要時間	教育 目標 領域
3 4	Aグループ 11/6 (木) 1, 2限	常清	ユニット2 教育実習 (AT2) 口腔ケア (ベッド上での介入)	1) 口腔全身介護技術の指導方法を理解する。	(1) 歯科衛生学科の学生に対して口腔全身介護技術の実習指導が出来る。 ① 器質的口腔ケア ② 機能的口腔ケア	摂食・嚥下機能について高齢者歯科の教科書を復習 (2時間)	精神・運動 (模倣) 情意 (受入)
	Bグループ 11/5 (水) 1, 2限	常清	[アクティブラーニング]				
5 6	Aグループ 12/18 (木) 2-4限	石井 南	ユニット3 教育実習 (AT3) 口腔ケア演習1	3) 口腔介護技術の指導方法を理解する。	(1) 歯科衛生学科の学生が看護学生に対して行う口腔ケア技術の実習について指導が出来る。 ①器質的口腔ケア ②機能的口腔ケア	口腔衛生管理について高齢者歯科・歯科保健指導の教科書を復習 (2時間)	情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
	Bグループ 12/19 (金) 2-4限	石井 南	[アクティブラーニング]				

【口腔機能向上支援に関する研修会の企画および開催 (17 コマ 34 時間)】

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/19 (金) 4限	堀部	ユニット2-1 口腔介護研修会 (1) 教育プラン計画立案 (目標設定・情報収集)	1) 乳幼児期・青年期・高齢期の口腔機能育成・維持・向上支援の方法を理解する。	(1) 口腔機能育成・維持・向上支援に関わる研究テーマを決める。 (2) セミナー課題に関連する先行研究の情報収集ができる。	研究テーマの学修 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
2 ・ 3	10/3 (金) 1, 2限	堀部 黒木 常清	[アクティブラーニング]			先行研究の学修 (1時間) 認知 (想起) 情意	(受入) 精神・運動 (模倣)
4	10/8 (水) 4限	堀部 黒木 常清	ユニット2-1 口腔介護研修会 (1) 教育プラン計画立案 (情報収集)	2) 課題を歯科衛生士の視点から分析する	(1) セミナー課題に関連する先行研究の情報収集ができる。 (2) セミナー課題に関連する先行研究の情報から、指導の要点を列挙できる。	先行研究の情報から指導の要点をまとめる (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
5	10/15 (水) 4限	堀部 黒木 常清	[アクティブラーニング]				
6	10/22 (水) 4限	堀部 黒木 常清					
7 ・ 8	11/14 (金) 3, 4限	堀部 黒木 常清	ユニット3 口腔介護研修会 (3) 教育プラン発表	1) 各グループで企画案を発表する。	(1) セミナーの企画書 (計画書) を作成し、概要を説明できる。	セミナーの企画書の作成について学修する (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
9	11/21 (金) 4限	堀部 黒木 常清	ユニット4-1 口腔介護研修会 (4)	1) セミナーの対象者に適した表現によるパワーポイントや原稿の作成を理解する。 セミナーの対象者に適した表現によるパワーポイントや原稿の作成を理解する。	1) プレゼンテーションを作成する 2) 配布資料を作成する 3) プレゼンテーションを修正する	先行研究の情報から指導の要点をまとめる (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
10 ・ 11	11/28 (金) 1, 2限	堀部 黒木 常清	プレゼン資料作成 [アクティブラーニング]				

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習項目 と 必要時間	教育 目標 領域
12 ・ 13	12/3 (水) 1, 2限	堀部 黒木 常清				セミナーの企画書の作成について学修する (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
14 ・ 15	12/17 (水) 3, 4限	堀部 黒木 常清				プレゼンテーションを作成について学修する (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
16 ・ 17	12/14 (金) 1, 2限	堀部 黒木 常清	ユニット4-2 口腔介護研修会 (4) プレゼン資料修正 [アクティブラーニング]	1) セミナーの対象者に適した表現によるパワーポイントや原稿の作成を再度理解する。	1) プレゼンテーションを修正する 2) 配布資料を修正する	プレゼンテーションを作成について学修する (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神・運動 (模倣)
					セミナー実施日 (予定) ◎乳幼児期対象グループ 保育士対象 1月19日 (月) 3歳児対象 1月23日 (金) ◎福岡市立高等学校生徒対象セミナー 1月23日 (金) 1月26日 (月) ◎地域高齢者対象セミナー Aグループ 1月19日 (月) Bグループ 1月26日 (月)		

歯科臨床実地

開講時期	専攻科通年
授業時間数	225 コマ ; 450 時間 10 単位
受験資格要件	4/5(180 コマ) 以上の出席
科目番号	HP211206
評価責任者	黒木まどか
授業担当者	指導主任歯科医師、指導主任歯科衛生士

1. 一般目標

本授業は歯科衛生学科で修得した基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識・技術・態度を基礎として、学位授与の方針に示された高い倫理観の下、専門分野の高度な知識、技術を修得し、科学的根拠に基づいた口腔保健衛生の実践、国際化社会に対応できるコミュニケーション能力、ICTを活用した情報処理能力、歯科衛生士のリーダーとしての能力を修得するため、福岡歯科大学医科歯科総合病院の専門診療科（総合歯科・訪問歯科センター、高齢者歯科、保存（むし歯）科、歯周病科、補綴（入れ歯）科、口腔インプラント科、口腔外科、矯正歯科、小児歯科、障害者歯科、口腔医療センター）で専門技能を実践し、各診療科で開かれる症例検討会や抄読会のほか、病院内の教員及び医療職員とのコミュニケーションの醸成を図り、歯科衛生士のリーダーに相応しい知識と技術ならびに医療人としての人格を備えることを目標とする。

2. 教育方法

実習 [アクティブラーニング]、演習 [ケースレポート]、小グループ学習

医療機関で歯科医師・歯科衛生士として、患者に対して診療行為や口腔保健管理に関わった実務経験を生かした実践教育を行う。

3. 教育教材 福岡医療短期大学歯科衛生学科・専攻科臨床実地マニュアル、プリント資料

4. 学修方法

各診療系における治療の概念のもと、これまでに得た知識を総合的に組み立て、臨床現場における問題の解決が図れるよう実践的教育の場として、医科歯科総合病院において診療の補助行為および口腔保健管理の介入手法を学修する。

専攻する診療科は2科とし、2期に分けて実習を行う（1期：4月～10月、2期11月～1月）。

授業開始時間は原則として午前8時30分から午後5時30分（昼休み1時間含む）までとするが、診療の都合により午後5時30分以降に延長することがある。日頃各科で行われる症例検討会等には積極的に参加し、理解できないことについては質問すること。また、興味ある事項を見つけ、専攻科修了までに1編以上の学会発表と論文作成を行うことを目標とする。

学修のために教科書やテキスト、必要な参考書を実習施設に各自携行すること。又、教科書等で解決できない疑問等については情報図書館を利用することや、教員に質問することで解決すること。

3年次に行った臨床実習を基に、各自が専攻した診療科での学びが歯科保健医療の指導者となり得ることを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：30時間】

5. 評価方法

〔形成的評価とフィードバック〕臨床実地における「総合目標」、各診療科別の「行動目標」について、学生自身が評価し、到達度を振り返る（1期：2回（7月・10月）、2期：1回（12・1月）、年間3回）。学生の評価に対し指導者は面談にてフィードバックコメントを行う。学生は自己評価と指導者からのフィードバックコメントをもとに次期の目標を設定し、臨床実地に取り組む。

〔総括的評価〕臨床実地指導者による評価（80%）、短大担当教員による評価（20%）

成績は評価終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

特になし

7. 参考書

各専攻診療科が指示する図書のほか、診療科に関連する雑誌・学会誌など

【総合歯科・訪問歯科センター】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	医科歯 科総合 病院実 習指導 者	ユニット1 オリエンテー ション [講義]	1)臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2)臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を 明確にする	(1)実習学生として心掛ける べき態度を述べることがで きる (2)診療の一員として行動す る意義を説明することがで きる (3)臨床実地における自己の 目標を述べるができる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解 (0.5)時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット2 [実習]	1)歯科医師と共に包括的 歯科診療計画の作成に参 加する 2)他科との連携を診療計 画に組み込む 3)総合歯科、訪問歯科セ ンターでの診療を実施す る 4) 将来の歯科衛生士のリー ダーとして、その基本 的な考え方、技術を身に つける	(1)患者の訴えや希望を正 確に聴き取り一口腔単位 での問題点を総合的に把 握できる (2)他の専門診療科に依頼 して診療を実施することが できる (3) 歯科診療補助、歯科予防 処置ならびに歯科保健指導を 実施することができる (4) 歯科疾患の予防および 地域住民の口腔衛生の向 上を図ることができる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	医科歯 科総合 病院実 習指導 者	ユニット3 [実習]	1)歯科医師と共に包括的 歯科診療計画の作成に参 加する 2)他科との連携を診療計 画に組み込む 3)総合歯科、訪問歯科セ ンターでの診療を実施す る 4)将来の歯科衛生士のリー ダーとして、その基本的 な考え方、技術を身に つける 5)訪問口腔衛生指導を必 要とする対象者に実施す る 6)各種訪問施設における 多職種との連携の手法を 身につける	(1)患者の訴えや希望を正 確に聴き取り一口腔単位 での問題点を総合的に把 握できる (2)他の専門診療科に依頼 して診療を実施することが できる (3) 歯科診療補助、歯科予防 処置ならびに歯科保健指導を 実施することができる (4) 歯科疾患の予防および 地域住民の口腔衛生の向 上を図ることができる (5)訪問施設での口腔衛生 指導を実施することができ る (6)多職種職員との情報伝 達を図ることができる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情意 (反応・内 面化)

【高齢者歯科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明する (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解 (0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
			ユニット 2 [実習]	1) 有病高齢者に良質な歯 科医療を提供できる 2) 専門的な口腔ケアや保健 指導、栄養指導、介助者へ の指導を実施する	(1) 高齢者の身体的、心理 的な特徴を理解できる (1) 有病高齢者の基礎疾患 に留意できる (2) 高度な口腔保健の知識 と技術を修得することが できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1) 有病高齢者に良質な歯 科医療を提供できる 2) 専門的な口腔ケアや保健 指導、栄養指導、介助者へ の指導を実施する	(1) 高齢者の身体的、心理 的な特徴を理解できる (1) 有病高齢者の基礎疾患 に留意できる (2) 高度な口腔保健の知識 と技術を修得することが できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情意 (反応・内 面化)

【保存(むし歯) 科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテ ーション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明する (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解 (0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット 2 [実習]	1) 保存外来患者の診療に 必要な知識(保存修復学、 歯内療法学、歯周病学) を修得する 2) 保存治療における歯科 衛生士に必要とされる技 能について十分に修得す る	(1) 口腔内診査ができる (1) 術野のコントロールと 介助ができる (2) 保存修復治療の診療補 助ができる (3) 歯内治療の診療補助が できる (4) 歯周治療の診療補助 ができる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1) 保存外来患者の診療に 必要な知識(保存修復学、 歯内療法学、歯周病学) を修得する 2) 保存治療における歯科衛 生士に必要とされる技能に ついて十分に修得する	(1) 口腔内診査ができる (1) 術野のコントロールと 介助ができる (2) 保存修復治療の診療補 助ができる (3) 歯内治療の診療補助が できる (4) 歯周治療の診療補助が できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情意 (反応・内 面化)

【歯周病科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明できる (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解 (0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット2 [実習]	1) 歯周疾患における診断 能力を向上する 2) 診査結果を分析し、歯 科医師とともに適確な診 断を導く 3) 治療計画を立て、最適 化を図る。 4) 症例を詳細に分析し、 歯周病症例のプレゼンテ ーションを行う 5) 歯周基本治療について習 熟する 6) 歯周外科処置の術式を修 得し、確実なアシストを行 う	(1) 各種診査項目に用いる 器械・器具・診査用紙を 臨床で使用できる (2) 診査結果を分析できる (3) 治療計画を立てること ができる (4) 症例に関する分析結果を 発表することができる (5) 歯周基本治療を実施で きる (6) 歯周外科治療のアシスト ができる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット3 [実習]	1) 歯周疾患における診断 能力を向上する 2) 診査結果を分析し、歯 科医師とともに適確な診 断を導く 3) 治療計画を立て、最適 化を図る。 4) 症例を詳細に分析し、 歯周病症例のプレゼンテ ーションを行う 5) 歯周基本治療について習 熟する 6) 歯周外科処置の術式を修 得し、確実なアシストを行 う	(1) 各種診査項目に用いる 器械・器具・診査用紙を 臨床で使用できる (2) 診査結果を分析できる (3) 治療計画を立てること ができる (4) 症例に関する分析結果を 発表することができる (5) 歯周基本治療を実施で きる (6) 歯周外科治療のアシスト ができる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情意 (反応・内 面化)

【補綴(入れ歯)科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明することがで きる (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解 (0.5時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット2 [実習]	1) 歯科医師と連携できる 2) 修復物に対応した予後管 理ができる 3) 治療全体の流れと技工操 作との関連を理解する	(1) 補綴治療の診療補助がで きる (2) 患者セルフケアを確認 し、指導できることがで きる (3) 補綴物の調整、修理、 除去に必要な機材、器具 を準備できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット3 [実習]	1) 歯科医師と連携できる 2) 修復物に対応した予後管 理ができる 3) 治療全体の流れと技工操 作との関連を理解する	(1) 補綴治療の診療補助がで きる (2) 患者セルフケアを確認 し、指導できる (3) 補綴物の調整、修理、 除去に必要な機材、器具 を準備できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情 意 (反応・内 面化)

【口腔インプラント科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテー ション [講義]	1)臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2)臨床実地の意義を理解す る 3)臨床実地の修得目標を明 確にする	(1)実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2)診療の一員として行動す る意義を説明する (3)臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解(0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット 2 [実習]	1)術前口腔管理ができる 2)診療介助ができる 3)術後口腔管理ができる	(1)口腔刷掃指導ができる (2)口腔インプラント手術の 介助ができる (3)治療後の口腔衛生管理指 導ができる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1)術前口腔管理ができる 2)診療介助ができる 3)術後口腔管理ができる	(1)口腔刷掃指導ができる (2)口腔インプラント手術の 介助ができる (3)治療後の口腔衛生管理指 導ができる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情意 (反応・内 面化)

【口腔外科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明する (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解(0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット 2 [実習]	1) 各種疾患の診断過程と治 療の概略を理解する 2) 外来での検査や処置、手 術の介助を習熟する 3) 手術室における手術およ び全身麻酔の補助を経験す る 4) 入院患者の口腔清掃指導 および口腔管理を実施する	(1) バイタルサインを採取で きる (2) 病歴聴取、各種診査の介 助を行うことができる (3) 各種手術の介助ができる (4) 周術期口腔機能管理がで きる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1) 各種疾患の診断過程と 治療の概略を理解する 2) 外来での検査や処置、 手術の介助を習熟する 3) 手術室における手術お よび全身麻酔の補助を経 験する 4) 入院患者の口腔清掃指 導および口腔管理を実施 する	(1) バイタルサインを採取で きる (2) 病歴聴取、各種診査の介 助を行うことができる (3) 各種手術の介助ができる (4) 周術期口腔機能管理がで きる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情意 (反応・内 面化)

【小児歯科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明する (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解(0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット 2 [実習]	1) 歯、歯周組織、顎顔面 および口腔の成長と機能 的発達を理解する 2) それら諸構造の異常や 不正な成長発育からひき おこされる種々の問題点 を改善する 3) 基本的治療概念と診療 補助での基本動作を修得 する 4) それらの異常の発生を予 防するための技術および 研究方法を学修する	(1) 小児臨床心理を理解する (2) 診療補助ができる (3) う蝕活動性試験を実施 し、評価する (4) ブラッシング指導ができ る	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1) 歯、歯周組織、顎顔面 および口腔の成長と機能 的発達を理解する 2) それら諸構造の異常や 不正な成長発育からひき おこされる種々の問題点 を改善する 3) 基本的治療概念と診療 補助での基本動作を修得 する 4) それらの異常の発生を 予防するための技術およ び研究方法を学修する	(1) 小児臨床心理を理解する (2) 診療補助ができる (3) う蝕活動性試験を実施 し、評価する (4) ブラッシング指導ができ る	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情意 (反応・内 面化)

【矯正歯科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明できる (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解(0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット 2 [実習]	1) 矯正歯科での診査、診 断、治療の流れを理解す る 2) 矯正治療に使用する器材 の準備、診療補助および資 料採得の補助を習熟する。 3) 口腔衛生指導管理法を修 得する 4) 口腔保健計画を立案す る 5) 口腔機能改善法を修得 する	(1) 不正咬合の診断と治療を 理解できる (2) 診療補助ができる (3) 口腔清掃指導方法を修 得することができる (4) 口腔保健計画の立案方 法を理解できる (5) 筋機能療法の指導方法 を実施できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 ／日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1) 矯正歯科での診査、診 断、治療の流れを理解す る 2) 矯正治療に使用する器材 の準備、診療補助および資 料採得の補助を習熟する。 3) 口腔衛生指導管理法を修 得する 4) 口腔保健計画を立案す る 5) 口腔機能改善法を修得 する	(1) 不正咬合の診断と治療を 理解する (2) 診療補助ができる (3) 口腔清掃指導方法を修 得することができる (4) 口腔保健計画の立案方 法を理解できる (5) 筋機能療法の指導方法 を実施できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 ／日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情 意 (反応・内 面化)

【障害者歯科】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明できる (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解 (0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット 2 [実習]	1) 身体障害者・知的障害 者・精神障害者・発達障 害者に対する接し方が適 切にできる 2) 歯科保健指導ができる	(1) 各種障害者に対して適切 な接し方を行う (2) 障害者歯科診療補助がで きる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1) 身体障害者・知的障害 者・精神障害者・発達障 害者に対する接し方が適 切にできる 2) 歯科保健指導ができる	(1) 各種障害者に対して適切 な接し方を行うことができ る (2) 障害者歯科診療補助がで きる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情 意 (反応・内 面化)

【口腔医療センター】

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標 領域
[1 期] 1-132	4/14 (月) ～ 7/17 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 1 オリエンテー ション [講義]	1) 臨床実地における実習学 生としての適切な行動、態 度を理解する 2) 臨床実地の意義を理解す る 3) 臨床実地の修得目標を明 確にする	(1) 実習学生として心掛ける べき態度を述べる (2) 診療の一員として行動す る意義を説明できる (3) 臨床実地における自己の 目標を述べる	診療科の 診療目 的・診療 業務の理 解 (0.5 時 間)	認知 (解釈・問 題解決)
[2 期] 207-334	11/4 (火) ～ 1/30 (金)		ユニット 2 [実習]	1) 清掃指導を修得する 2) スケーリング・ルート プレーニングを修得する 3) 概形印象採得を実施する	(1) 口腔清掃指導ができる (2) 歯石除去を実施できる (3) アルギン酸印象材の練 和、トレーへの盛り付けを 実施できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール) 情 意 (反応・内 面化)
[1 期] 133-206	9/2 (火) ～ 10/30 (木)	臨床統括 担任 医科歯科 総合病院 実習指導 者	ユニット 3 [実習]	1) 清掃指導を修得する 2) スケーリング・ルート プレーニングを修得する 3) 概形印象採得を実施す る	(1) 口腔清掃指導ができる (2) 歯石除去を実施できる (3) アルギン酸印象材の練 和、トレーへの盛り付けを 実施できる	当日の実 習内容に 関して指 導者から フィード バックさ れた内容 について 整理する (1.0 時間 /日)	精神運動 (コントロ ール・自 動化) 情 意 (反応・内 面化)

研究方法論

開講時期： 専攻科前期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3（10 コマ）以上の出席
 科目番号： HP212002
 評価責任者： 中園栄里
 授業担当者： 中園栄里

1. 一般目標

研究活動における研究テーマ（課題）の探索と選定、先行研究の調査（文献検索の方法、文献収集の方法）、研究計画の立案、文献の整理（ファイリング等）、データの整理と統計処理等の基本の修得や、また、学術雑誌に掲載された論文を例として挙げ、論文の構成、科学的・批判的思考ならびに科学的論述法を修得する。先行研究の分析・検討を通して科学的根拠に基づいた口腔保健衛生を実践できる能力を養う。

2. 教育方法

講義・プレゼンテーション・討論
 博士（栄養科学）を有する教員による実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター。

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。プレゼンテーションの準備を怠らないこと。本授業は専攻研究の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間]

5. 評価方法

[総括的評価] 自分の研究テーマに沿った先行論文および履修計画書のプレゼンテーションと討論についてルーブリック評価する（100%）。

[フィードバック] 試験結果（成績）は、講義終了後に連絡する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第3版」日本歯科衛生学会監修、医歯薬出版、2021 年

7. 参考書

なし

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（G10）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/4 (金) 4 限	中園	オリエンテーション ユニット 1 研究の紹介 研究テーマ案の決定 先行研究論文の検索 [講義]・[演習]	1) 研究テーマについて理解する。 2) 研究テーマ案を提示する。 3) 先行研究論文を検索する。	(1) 研究とは何かを説明することができる。 (2) 提示された過去の専攻論文テーマを参考に、自分の研究テーマを考えることができる。 (3) 先行研究論文を検索することができる。	自分の研究テーマに沿った先行研究論文を検索し、自分の研究テーマ案を作る。 (2 時間)	認知 (想起)
2	4/7 (月) 2 限	中園	ユニット 2 履修計画書の説明 [講義]・[演習]	1) 履修計画書について説明できる。 2) 研究テーマ案を決定する。	(1) 自分の研究テーマに沿った履修計画書を作成することができる。 (2) 自分の研究テーマを決定することができる。	自分の研究テーマに沿った先行研究論文を検索する。 (2 時間)	認知 (想起)
3	4/7 (月) 3 限	中園	ユニット 3 研究プロセス1 [講義]・[演習]	1) 「テーマの着想に至った「背景」「目的」について理解する。	(1) 研究の着想をもつことができる。 (2) 研究の背景を述べることができる。 (3) 研究のアプローチを述べることができる。 (4) 研究の目的を述べることができる。 (5) 研究の意義を述べることができる。	自分の研究テーマに沿った先行研究論文を検索する。 (2 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
14	7/7 (月) 3 限	中園	ユニット 5 先行研究論文の抄 読会3 [演習]・[討論]	1)抄読会について 理解する。	(1)指定論文のプレゼンテーションと討論 ができる。	プレゼンテーショ ンの予習・復習を 行う。 (6 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 態度 (受入)
15	7/7 (月) 4 限	中園	ユニット 5 先行研究論文の抄 読会4 [演習]・[討論]	1)抄読会について 理解する。	(1)指定論文のプレゼンテーションと討論 ができる。	プレゼンテーショ ンの予習・復習を 行う。 (6 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 態度 (受入)

情報処理演習

開講時期： 専攻科前期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： HP212003
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 古野みはる

1. 一般目標

歯科衛生士が臨床の現場で遭遇する各種の課題・問題を判断、処理、解決するために、パソコンやインターネット等のコンピューターを利用して情報を取得し、関連づけ、処理する技術を修得する。また、研究活動における研究テーマ（課題）の探索と選定、先行研究の調査（文献検索の方法、文献収集の方法）、研究計画の立案、文献の整理（ファイリング等）、データの整理と統計処理等の基本を修得する。

2. 教育方法

講義、演習、討論を行う。

3. 教育教材

プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。プレゼンテーションの準備を怠らないこと。本授業は専攻研究の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間]

5. 評価方法

[総括的評価] 指定論文および専攻論文の履修計画に関するプレゼンテーションと討論をルーブリックによる評価 (100%)

[フィードバック] 試験結果 (成績) は、講義終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

なし

7. 参考書

なし

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/4 (金) 4 限	古野	オリエンテーション ユニット 1 研究の紹介 [講義]	1) 研究テーマについて理解する。	(1) 研究とは何かを説明することができる。 (2) 提示された過去の専攻論文テーマをもとに、自分の研究テーマ案を列記することができる。	配布資料を精読し、復習する。 (2 時間)	認知 (想起)
2	4/7 (月) 2 限	古野	ユニット 2 研究テーマの決定 [講義] [演習]	1) 研究テーマを決定する。	(1) 自分の研究テーマを1つに絞り込むことができる。	配布資料を精読し、復習する。 (2 時間)	認知 (想起)
3	4/7 (月) 3 限	古野	ユニット 3-1 研究プロセス1 [講義]	1) 「テーマの着想に至った「背景」「目的」について理解する。	(1) 研究の着想 (関心をもったことは何か?) (2) 研究の背景 (その背景をどのようなものか?) (3) 研究のアプローチ (どんなアプローチがあるか?) (4) 研究の目的 (本研究で明きからにすることは何か?) (5) 研究の意義 (本研究の意義はどのようなものか?)	配布資料を精読し、復習する。 (2 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
4	4/8 (火) 2 限	古野	ユニット 3-2 研究プロセス2 [講義]	2)「先行研究」について理解する。	(1) 先行研究の検索 (過去の研究のアプローチは?) (2) 先行研究の整理 (どこまで明らかになっているのか?) (3) 先行研究の限界 (先行研究の限界は何か?) (4) 残された問題は何か? (どこまで明らかになっているのか?)	配布資料を精読し、復習する。 (2時間)	認知 (想起)
5	4/10 (水) 1 限	古野	ユニット 3-3 研究プロセス3 [講義]	3)「問題」「研究方法」について理解する。	(1) 問題の所在 (先行研究によって明らかになった問題とは?) (2) 仮説 (どのような研究仮説が成り立つのか?) (3) 本研究の限界 (本研究の仮説検証に伴う限界は何か?) (5) 仮説検証の方法 (仮説検証の手順) (6) 研究の着想 (どのような方法でアプローチするのか?) (7) データ解析 (データ解析はどのような方法を利用するのか?)	配布資料を精読し、復習する。 (2時間)	認知 (想起)
6	4/10 (水) 2 限	古野	ユニット 3-4 研究プロセス4 [講義]	4)「結果」「考察」「結論」について理解する。	(1) 結果の整理 (どのような結果が得られたのか?) (2) 統計解析結果 (統計的に有意な結果が得られたか?) (3) 結果の解釈 (統計解析の結果はどのような意味があるのか?) (4) 新しい知見 (先行研究と比較して新たな知見は何か?) (5) 仮説の検証 (仮説は採択されたか否か?) (6) 総括 (本研究を要約するとどのような研究であったか?) (7) 結論 (本研究を総括してどのようなことがいえるか?)	配布資料を精読し、復習する。 (2時間)	認知 (想起)
7	5/26 (月) 3 限	古野	ユニット 4-1 データ処理の基礎知識1 [演習]	1) 抄読会について理解する。	(1) 指定論文のプレゼンテーションと討論ができる。	プレゼンテーションの予習・復習を行う。 (6 時間)。	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
8	5/26 (月) 4 限	古野	ユニット 4-2 データ処理の基礎知識2 [演習]	1) 抄読会について理解する。	(1) 指定論文のプレゼンテーションと討論ができる。	プレゼンテーションの予習・復習を行う。 (6 時間)。	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
9	5/30 (金) 1 限	古野	ユニット 4-3 データ処理の基礎知識3 [演習]	1) 抄読会について理解する。	(1) 指定論文のプレゼンテーションと討論ができる。	プレゼンテーションの予習・復習を行う。 (6 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
10	5/30 (金) 2 限	古野	ユニット 4-4 データ処理の基礎知識4 [演習] [討論]	1) 抄読会について理解する。	(1) 指定論文のプレゼンテーションと討論ができる。	プレゼンテーションの予習・復習を行う。 (5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
11	6/6 (金) 4 限	古野	ユニット 5-1 履修計画書1 [演習]	1) 専攻論文の履修計画書を作成する。	(1) 専攻論文の履修計画書について発表することができる。	履修計画書発表の予習・復習を行う。 (5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 態度 (受入)
12	7/4 (金) 1 限	古野	ユニット 5 履修計画書2 [演習]	1) 専攻論文の履修計画書を作成する。	(1) 専攻論文の履修計画書について発表することができる。	履修計画書発表の予習・復習を行う。 (5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 態度 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
13	7/4 (金) 2 限	古野	ユニット 5-3 履修計画書3 [演習]	1) 専攻論文の 履修計画書を作 成する。	(1) 専攻論文の履修計画書について発表する ことができる。	履修計画書発表 の予習・復習を 行う。 (5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール) 態度 (受入)
14	7/7 (月) 3 限	古野	ユニット 5 履修計画書4 [演習]	1) 専攻論文の 履修計画書を作 成する。	(1) 専攻論文の履修計画書について発表する ことができる。	履修計画書発表 の予習・復習を 行う。 (5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール) 態度 (受入)
15	7/7 (月) 4 限	古野	ユニット 5 履修計画書5 [演習]	1) 専攻論文の 履修計画書を作 成する。	(1) 専攻論文の履修計画書について発表する ことができる。	履修計画書発表 の予習・復習を 行う。 (5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール) 態度 (受入)

社会保障特論

開講時期	専攻科後期
授業時間数	15 コマ：30 時間 2 単位
出席要件	2/3 (10 コマ) 以上の出席
科目番号	HP212101
評価責任者	黒木 まどか
授業担当者	石橋 真冬花

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として歯・口腔疾患の予防及び歯科保健指導を行うことに加え、多様な対象者（患者）のトータルペインを理解し専門職として業務を行うためにも、各種社会保障制度を理解することは必要であろう。

本講義では、何のために社会保障を学ぶのかを理解した上で、各制度（医療保険、生活保護、介護保険、年金、雇用保険、労働者災害補償保険等）について学び、基本的な医療、保健、福祉の知識を体系的に理解する。

2. 教育方法

講義形式での解説を中心に行う。

3. 教育教材

教科書、DVD、PC、プロジェクター

4. 学修方法

授業はプリントを使用するが、重要な箇所は適宜書き込み等を行うこと。レポート課題は締切り期日を守ること。本授業は、口腔介護論、地域口腔介護実習の理解に不可欠である。 [単位修得に必要な授業外学習時間：60 時間]

5. 評価方法

[総括的評価] レポート：30%、平常点：70%（授業の出席状況、授業態度、グループワークへの取り組み状況、授業内レポート等）。詳細については初回講義にて説明を行う。

[フィードバック] 評価（成績）は、評価終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 棕野美智子『はじめての社会保障－福祉を学ぶ人へ－第 20 版』有斐閣アルマ、2023 年。

7. 参考書

1. 厚生労働統計協会 『保険と年金の動向』 各年版
2. 厚生労働省 『厚生労働白書』 各年版

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/3 (水) 3 限	石橋	ユニット 1 オリエンテーショ ン、社会保障の見取 り図、社会保障の歴 史と構造 [講義]	1) 社会保障の意義を理 解し、概念の整理を 行う。	(1)～(5)を理解し、自らの意見を述べることができ る。 (1)概念整理 (2)世界の社会保障の歴史 (3)日本の社会保障の歩み (4)社会保障の機能 (5)社会保障の財政	教科書の該 当部分を通 読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
2	9/10 (水) 3 限	石橋	ユニット 2-1 医療保険 [講義]	1) 医療サービスの保障 について理解する。	(1)～(3)を理解し、自らの意見を述べることができ る。 (1)医療サービスを保障する仕組み (2)被保険者と保険料 (3)保険給付	教科書の該 当部分を通 読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
3	9/17 (水) 3 限	石橋	ユニット 2-2 医療保険 [講義]	2) 医療サービスの保障 について理解する。	(1)(2)を理解し、自らの意見を述べることができ る。 (1)診療報酬と薬価基準 (2)高齢者医療制度	教科書の該 当部分を通 読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
4	9/24 (水) 3 限	石橋	ユニット 2-3 医療保険 [講義]	3) 医療サービスの保障 について理解し、医 療保険の課題につ いてグループワークを 行う。	(1)(2)を理解し、自らの意見を述べることができ る。 (1)国民医療費 (2)医療提供体制	教科書の該 当部分を通 読する。 (4 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
5	10/1 (水) 3 限	石橋	ユニット 3-1 介護保険 [講義]	1) 介護保険制度を理解する。	(1)～(3)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 介護サービスを保障する仕組み (2) 保険者 (3) 被保険者と保険料	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
6	10/8 (水) 3 限	石橋	ユニット 3-2 介護保険 [講義]	2) 介護保険制度を理解する。	(1)～(3)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 保険給付 (2) 介護提供体制 (3) 権利保護	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
7	10/15 (水) 3 限	石橋	ユニット 4-1 生活保護と社会福祉制度 [講義]	1) 生活保護制度を理解する。	(1) (2)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 生活保護 (2) 社会福祉制度	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
8	10/22 (水) 3 限	石橋	ユニット 4-2 生活保護と社会福祉制度 [講義]	2) 生活保護制度を理解する。	(1)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 社会手当	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
9	10/29 (水) 3 限	石橋	ユニット 5-1 年金 [講義]	1) 年金制度を理解する。	(1)～(4)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 所得を保障する仕組み (2) 被保険者と保険料 (3) 老齢年金 (4) 財政方式	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
10	11/5 (水) 3 限	石橋	ユニット 5-2 年金 [講義]	2) 年金制度を理解する。	(1)～(4)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 障害年金 (2) 遺族年金 (3) 年金の業務体制 (4) 企業年金等	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
11	11/12 (水) 3 限	石橋	ユニット 6-1 雇用保険 [講義]	1) 雇用保険制度を理解する。	(1) (2)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 失業した場合に所得を保障する仕組み (2) 被保険者と保険料	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
12	11/19 (水) 3 限	石橋	ユニット 6-2 雇用保険 [講義]	2) 雇用保険制度を理解する。	(1) (2)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 保険給付 (2) 雇用保険事業	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
13	11/26 (水) 3 限	石橋	ユニット 7-1 労働者災害補償保険 [講義]	1) 労働者災害補償保険制度を理解する	(1) (2)を理解し、自らの意見を述べるができる。 (1) 業務上の事故について補償する仕組み (2) 適用事業と保険料	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
14	12/3 (水) 3 限	石橋	ユニット 7-2 労働者災害補償保険 [講義]	2) 労働者災害補償保険制度を理解する。	(1)～(3)を理解し、自らの意見を述べることができる。 (1) 業務上または通勤による災害の認定 (2) 保険給付 (3) 社会復帰促進等事業	教科書の該当部分を通読する。 (4 時間)	認知 (解釈)
15	12/10 (水) 3 限	石橋	ユニット 8 社会保障の課題 レポート [講義]	1) 講義での学びを振り返りながら、現代の社会保障の課題と展望を理解する。	(1) 講義プリントやテキストを使用し、学んだことや自身で考えたことについて意見を述べるができる。	これまで使用した授業プリントを整理する。 (4 時間)	認知 (解釈)

老人・障害者福祉論

開講時期： 専攻科後期
 授業時間数： 15 コマ：30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： HP212102
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 古野 みはる

1. 一般目標

本授業は、歯科衛生士として必要な高齢者や障害者の特性を理解し、地域共生社会のなかで多職種連携の取り組みを推進する視点を身に付ける。また、高齢者や障害者を取り巻く今日的な課題を通じて、ダイバーシティ&インクルージョンの視点を身に付ける。

2. 教育方法

講義・演習・アクティブラーニング

介護事業所、行政機関等で介護福祉士、社会福祉士として高齢者や障害者の支援に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

配付プリント、PC+プロジェクター、DVD。

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業は予習していることを前提に開始するので、予習項目に記載の事前学修を怠らないこと。レポート課題は締切期日を守ること。

本授業を理解する上で、本授業を理解する上で、専門基礎分野の歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組みの知識が必要であり、本授業は口腔介護特論、地域口腔介護実習、歯科臨床実地の理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間】

5. 評価方法

〔形式的評価〕課題レポート

〔フィードバック〕不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。

〔総括的評価〕最終レポート（50%）・課題レポート（30%）・授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（20%）

〔フィードバック〕試験結果（成績）は、採点終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

適宜プリントを配付する。

7. 参考書

特になし。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/3 (水) 3 限	古野	オリエンテーション ユニット 1 高齢者の社会的 理解 〔講義〕	1) 地域で生活する高齢者の現状を理解する。	(1) 高齢者を取り巻く消費者被害や虐待の現状を説明することができる。 (2) 高齢者の権利擁護のために必要な関係機関を説明することができる。	高齢者に多い消費者被害の事例を項目毎に調べてまとめる。 (4 時間)	認知 (想起・解釈)
2	9/10 (水) 3 限	古野	ユニット 2 高齢者の身体的 理解 〔演習〕	1) 地域で生活する高齢者の加齢に伴う身体機能等の変化を理解する。	(1) 通所サービスを利用する高齢者の身体機能をアセスメントすることができる。 (2) 通所サービスを利用する高齢者とコミュニケーションを図る。	高齢者に多い病気を調べて体系的にまとめる。 (4 時間)	認知 (想起・解釈) 情意 (受け入れ・反応)
3	9/17 (水) 3 限	古野	ユニット 3 高齢者の精神的 理解 〔講義〕	1) 高齢者の心理的特徴と老年期の心の病気を理解する。	(1) 高齢期に起こる 3 つの喪失を説明することができる。 (2) セルフネグレクトについて説明することができる。	高齢期に多い精神的な特徴を体系的に調べてまとめる。 (4 時間)	認知 (想起・解釈)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
4	9/24 (水) 3 限	古野	ユニット 3 高齢者の精神的 理解 〔講義〕	2) 発達段階からみた高 齢期の特徴を理解す る。	(1) 高齢期の発達課題を説明 することができる。 (2) 高齢期の適応について説 明することができる。	エリクソンの発達 課題を調べてまと める。 (4 時間)	認知 (想起・ 解釈)
5	10/1 (水) 3 限	古野	ユニット 3 高齢者の精神的 理解 〔講義〕 〔DVD〕	3) 高齢期のサクセスフ ルエイジングの実践 を理解する。	(1) サクセスフルエイジ ングを迎えるためのポイントに ついて、自分の考えを述べ ることができる。	発達課題を踏まえ て、サクセスフル エイジングを迎え るために必要な要 件をまとめる。 (4 時間)	情意 (受け入 れ・反応)
6	10/8 (水) 3 限	古野	ユニット 4 高齢者・障害者 とのコミュニケー ーション 〔講義〕 〔グループ学習〕	1) コミュニケーション のための自己覚知の 重要性を理解する。	(1) 自己覚知について説明す ることができる。 (2) クラスメイトのよいと ころを見つけて、伝えること ができる。	自己防衛機制につ いて、事例を挙げ てまとめる。 (4 時間)	認知 (想起・ 問題解決) 情意 (受け入 れ・反応)
7	10/15 (水) 3 限	古野	ユニット 4 高齢者・障害者 とのコミュニケー ーション 〔演習〕	2) ストレngths、エン パワメントの視点 を持つ重要性を理解す る。	(1) 通所サービスを利用する 高齢者にストレngths、エン パワメントの視点で関わ り、その方の素晴らしいと ころを発見できる。	関わった高齢者の 素晴らしいところ を紹介できるよう にまとめる。 (4 時間)	認知 (想起・ 問題解決)
8	10/22 (水) 3 限	古野	ユニット 4 高齢者・障害者 とのコミュニケー ーション 〔講義〕	3) アンガーマネジメン トの手法を理解す る。	(1) 怒りの本質を説明するこ とができる。 (2) 人から怒りをぶつけられ た時の対処方法を説明する ことができる。	自分が怒りを感じ た場面・状況を整 理してまとめる。 (4 時間)	認知 (想起)
9	10/29 (水) 3 限	古野	ユニット 5 障害の基礎的理 解 〔講義〕 〔演習〕	1) 障害の表記、種類や 定義について理解す る。	(1) 障害の表記について、自 分の考えをまとめ、意見を 述べるができる。 (2) 障害の種類、定義につ いて説明することができる。	法律毎の「障害者 の定義」を調べて まとめる。 (4 時間)	認知 (想起・ 解釈) 情意 (受入・ 反応)
10	11/5 (水) 3 限	古野	ユニット 6 障害者の現状 〔講義〕	1) 社会の中で、障害者 のおかれている現状 を理解する。	(1) 障害種別毎の割合を説明 することができる。 (2) 優生思想と障害者差別の 歴史を説明することができ る。	ニュースや新聞記 事から「障害者差 別」の具体的事例 を調べてまとめ る。 (4 時間)	認知 (解釈)
11	11/12 (水) 3 限	古野	ユニット 7 障害者福祉の理 念 〔講義〕	1) 障害者福祉の基本理 念を理解する。	(1) ノーマライゼーション、 リハビリテーション、イン クルージョンの意味を説明 することができる。 (2) IL 運動と ADA 法につ いて説明することができる。	身近なバリアを 4 つの類型毎に調べ てまとめる。 (4 時間)	認知 (想起・ 解釈)
12	11/19 (水) 3 限	古野	ユニット 8 障害者差別と雇 用 〔講義〕	1) 障害者の雇用の現状 と障害者差別解消法 について理解する。	(1) 障害者雇用促進法の改正 点について説明することが できる。 (2) 合理的配慮について説明 することができる。	障害者雇用率が高 い企業を調べて職 種別にまとめる。 (4 時間)	認知 (想起・ 解釈)
13	11/26 (水) 3 限	古野	ユニット 9 障害の受容 〔DVD〕 レポート課題	1) サリドマイド被害者 の現状から、障害者 の抱える心理的課題 を理解する。	(1) 障害を持つことによる 生きづらさについて多方面 から考え、自分の意見をま とめることができる。	薬害について調 べ、DVD の感想を レポートにまとめ る。 (4 時間)	認知 (想起) 情意 (受入・ 反応)
14	12/3 (水) 3 限	古野	ユニット 10 障害者の恋愛・性 〔講義・演習 (グループワー ク)〕	1) 障害者の恋愛・性の 現状を理解する。	(1) 障害種別毎に生じる恋 愛や性についての課題を説 明することができる。 (2) 障害者の恋愛・性につ いて考え、自分の意見を述 べることができる。	障害者の恋愛や性 をテーマにした小 説、映画を調べて 概要をまとめる。 (4 時間)	認知 (解釈・問 題解決) 情意 (受入・ 反応)
15	12/10 (水) 3 限	古野	ユニット 11 発達障害の理解 〔講義〕	1) 発達障害の種類や定 義、生活のしづらさ を理解する。	(1) 発達障害の人の特性を 説明することができる。 (2) 発達障害の人の生きづ らさを説明することができ る。	「大人の発達障 害」の現状と課題 について調べてま とめる。 (4 時間)	認知 (想起・ 解釈)

福 岡 医 療 短 期 大 学

〒814-0193 福岡市早良区田村二丁目15番1号

電 話 092 (801) 0439

F A X 092 (801) 4473